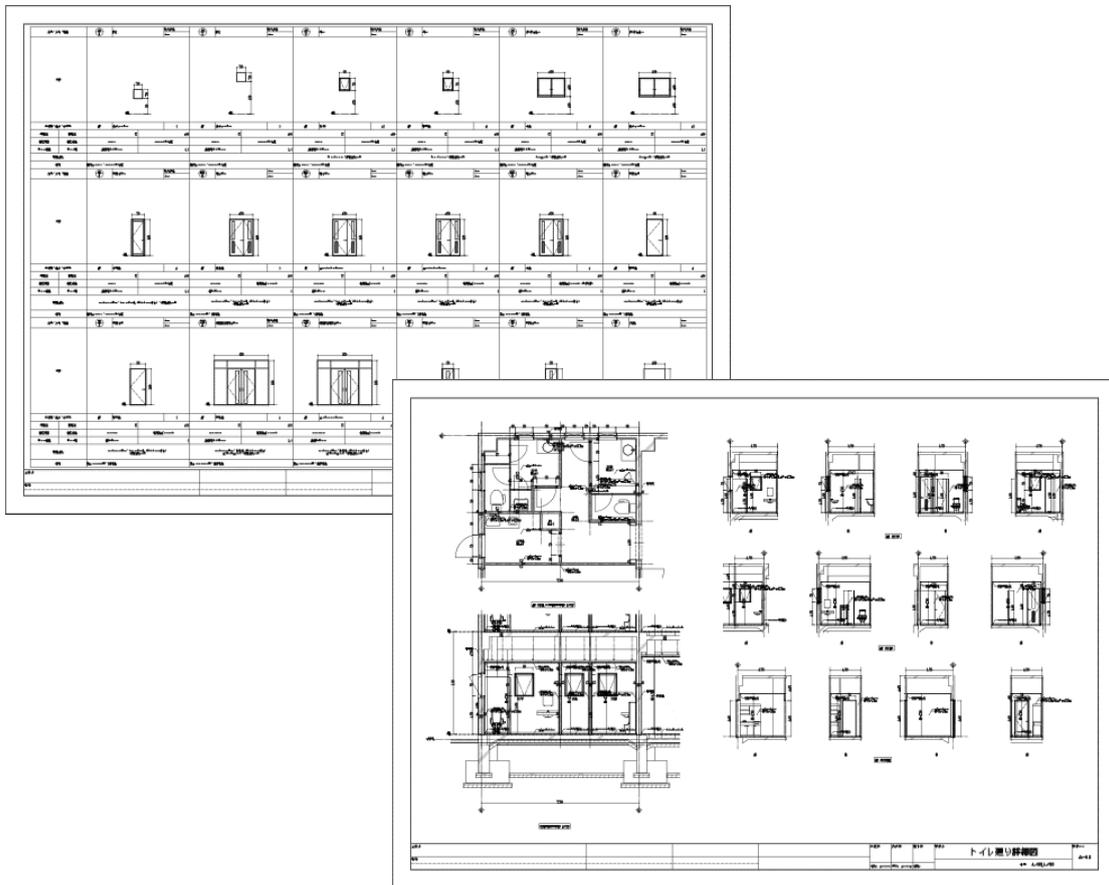


導入マニュアル

[モデル詳細編]



目次

1 仕上仕様の変更	3	5 建具表の作成	27
1-1 フカシ・断熱材の変更	3	5-1 符号の割り当てと建具表の登録	27
フカシを削除する	3	パーティションをグループ化する	27
断熱材を入力する	4	建具符号を割り付ける	28
1-2 仕上仕様の変更	5	建具表に登録する	29
壁仕上の仕様を変更する	5	5-2 詳細項目の編集	30
壁下地の仕様を変更する	5	詳細プロパティを入力する	30
床下地の仕様を変更する	6	他の符号に複写する	30
設定した仕様で更新する	6	5-3 建具デザインの変更	31
1-3 スラブ・梁のレベル変更	8	詳細プロパティを変更する	31
スラブを分割する	8	倉庫側の仕上を変更する	32
スラブのレベルを変更する	9	建具符号を再設定する	33
梁のレベルを変更する	9	建具符号を表示する	33
2 寸法線・引出線の入力	10	6 図面の作成	34
2-1 詳細図寸法線・引出線の入力	10	6-1 仕上表の調整	34
詳細図寸法線を入力する	10	作表しない仕上を設定する	34
寸法を調整する	12	6-2 天井伏図の設定	35
詳細図引出線を入力する	12	天井伏図用の符号を割り当てる	35
断面ビューで入力する	13	6-3 トイレ廻り詳細図の準備	36
2-2 設計寸法の調整	14	トイレ廻りの引出線を削除する	36
窓高を変更する	14	断面線を入力する	37
パーティションを変更する	15	展開視点を入力する	37
3 はと小屋の入力	17	展開視点の切断位置を変更する	38
3-1 はと小屋の躯体入力	17	6-4 図面の作成	39
壁を入力する	17	仕上表を更新する	39
防水アゴを入力する	18	天井伏図を更新する	40
スラブを入力する	19	平面詳細図を更新する	41
3-2 防水立ち上がりと防水止めアングルの入力	19	トイレ廻り詳細図を作成する	42
外壁仕上を入力する	19	建具キープランを作成する	44
水切を入力する	20	建具表を作成する	46
表示順を変更する	21		
4 ブラインドボックスの入力	22		
4-1 ブラインドボックスの入力	22		
化粧材を入力する	22		
化粧材の形状を変更する	23		
他の階に複写する	25		
高さを変更する	25		
4-2 天井領域の編集	26		

1 仕上仕様の変更

ここでは、4階会議室の壁仕上を打ち放し仕上から石膏ボード下地のクロス張り、床仕上のタイルカーペットをモルタル下地からフリーアクセスフロア下地に仕様変更をおこないます。

また、それに伴う躯体の高さも変更します。

【解説用データ】：L4_1.GLM

※ GLOBE ボタンをクリックして「開く」を選び、「L4_1.GLM」を開きます。



1-1 フカシ・断熱材の変更

※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

平面ビューの表示階：「4F」

3D ビューのエリア：アクティブ階

縮尺：詳細 1/50

表示テンプレート：「初期値」

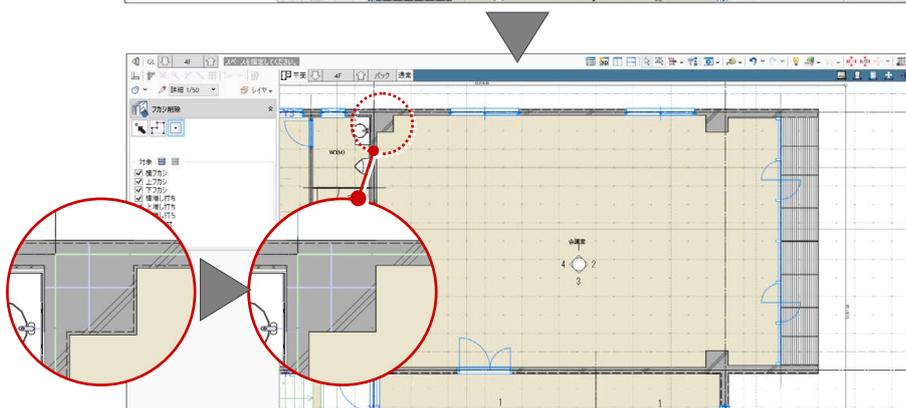
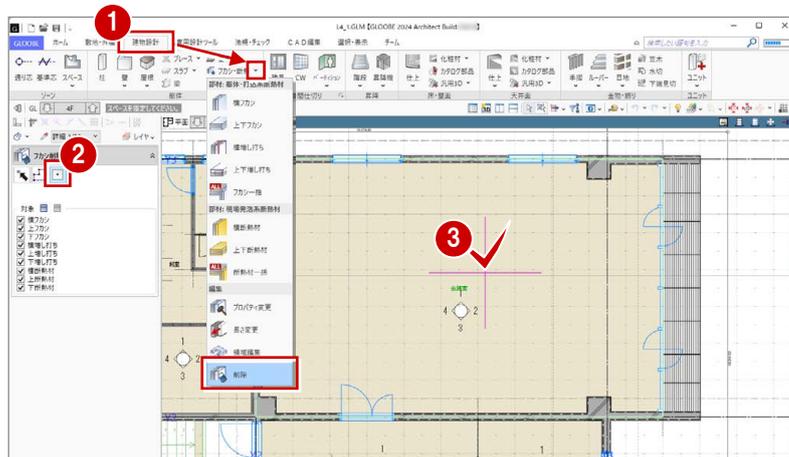
Color2D：種別毎



フカシを削除する

会議室の打ち放し仕上用に入力されているフカシを削除しましょう。

- ① 「建物設計」タブをクリックして、「フカシ・断熱」メニューから「削除」を選びます。
- ② 入力モードを「スペース内削除」に変更します。
- ③ 会議室をクリックします。

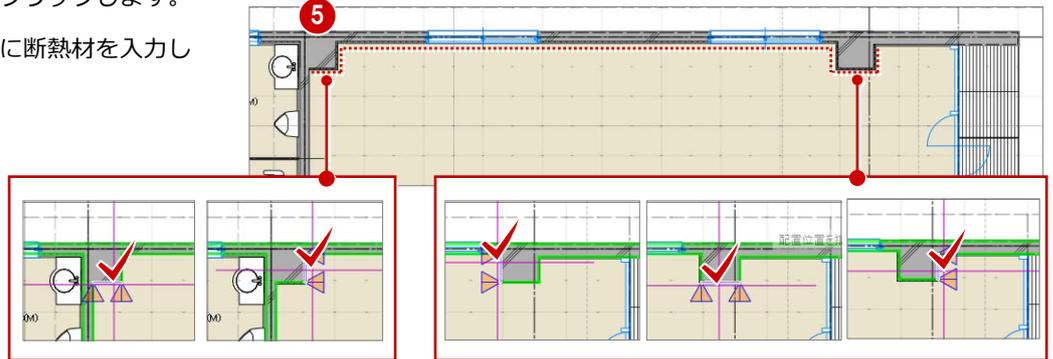
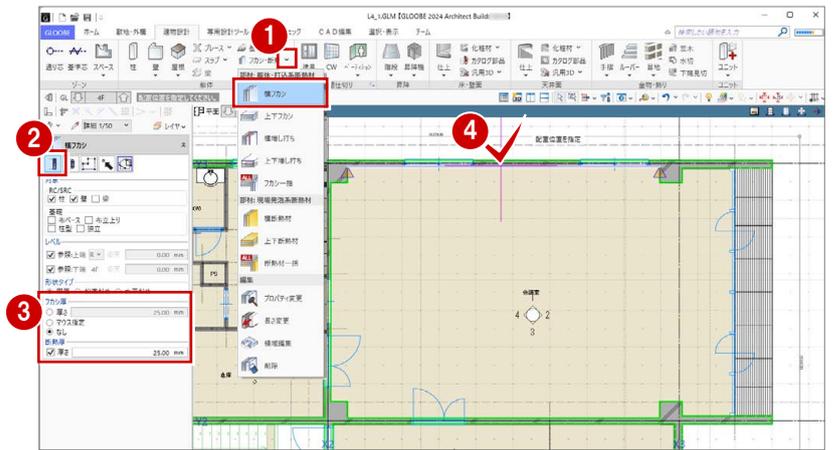


1 仕上仕様の変更

断熱材を入力する

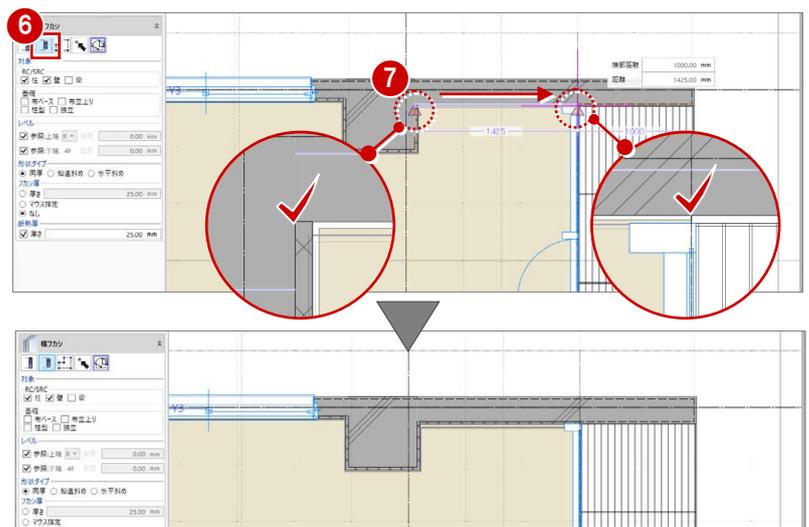
外壁まわりに断熱材を入力しましょう。

- ① 「フカシ・断熱」メニューから「横フカシ」を選びます。
- ② 入力モードが「1点参照」であることを確認します。
- ③ 次のように設定を変更します。
フカシ厚：なし
断熱厚：ON、厚さ 25 mm
- ④ 断熱材を入力する位置をクリックします。
- ⑤ 同様にして、右図の位置に断熱材を入力します。



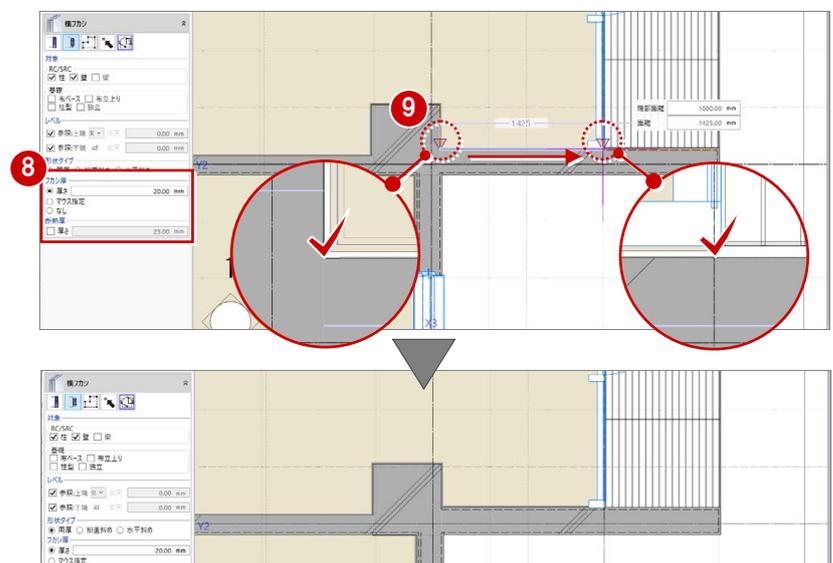
袖壁の内部になる部分は、入力モードを変更して入力します。

- ⑥ 入力モードを「2点参照」に変更します。
- ⑦ 右図のように断熱材の始点、終点をクリックします。



Y2 通りの袖壁の内部になる部分にはフカシを入力します。

- ⑧ 次のように設定を変更します。
フカシ厚：厚さ 20 mm
断熱厚：OFF
- ⑨ 右図の位置にフカシを入力します。

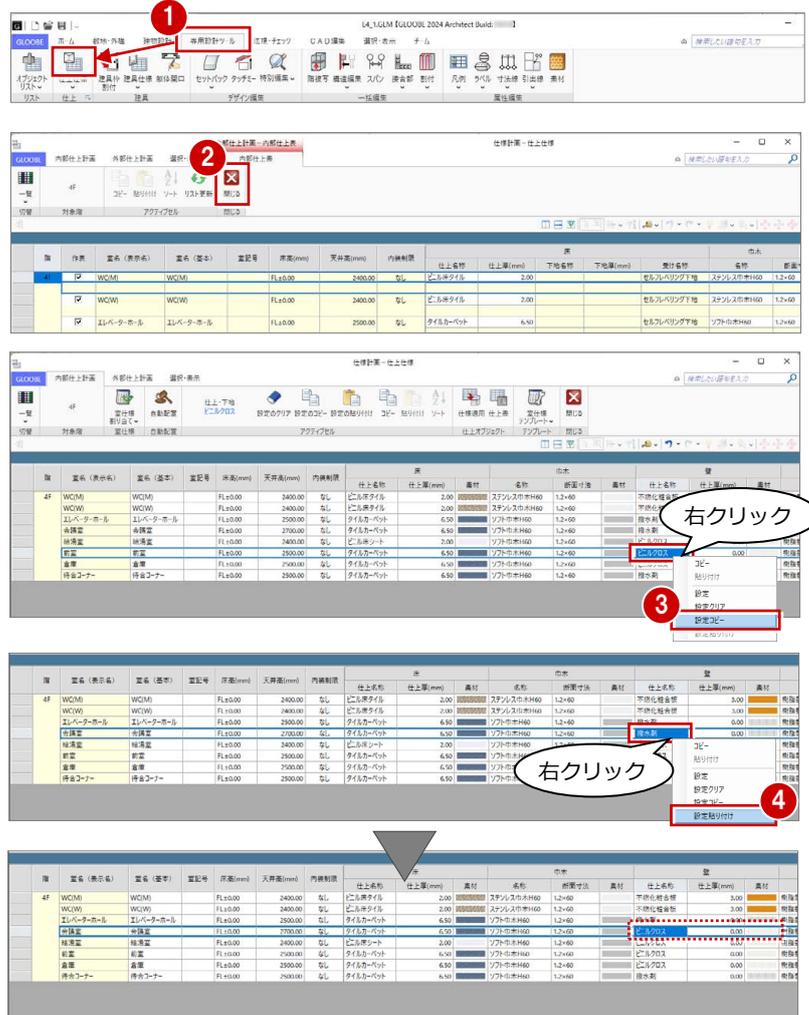


1-2 仕上仕様の変更

壁仕上の仕様を変更する

- ① 「専用設計ツール」タブをクリックして、「仕上仕様」を選びます。
- ② 「閉じる」をクリックして「内部仕上表」タブを閉じます。「内部仕上計画」タブが開きます。
- ③ 前室の壁仕上名称のセルを選択し、右クリックして「設定コピー」を選びます。
- ④ 会議室の壁仕上名称のセルを選択し、右クリックして「設定貼り付け」を選びます。下地名称や素材などが変更されます。

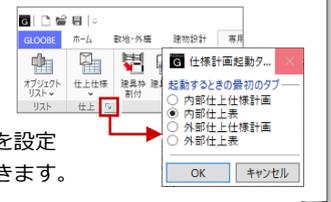
会議室の壁仕上を打ち放しからクロス張りに変更しましょう。ここでは、前室の仕上を会議室にコピーします。



「内部仕上計画」と「内部仕上表」

「内部仕上計画」タブでは、各室の仕様を検討し、設定した内容で仕上データを発生させます。「内部仕上表」タブでは、配置されている仕上データを集計して表示します。

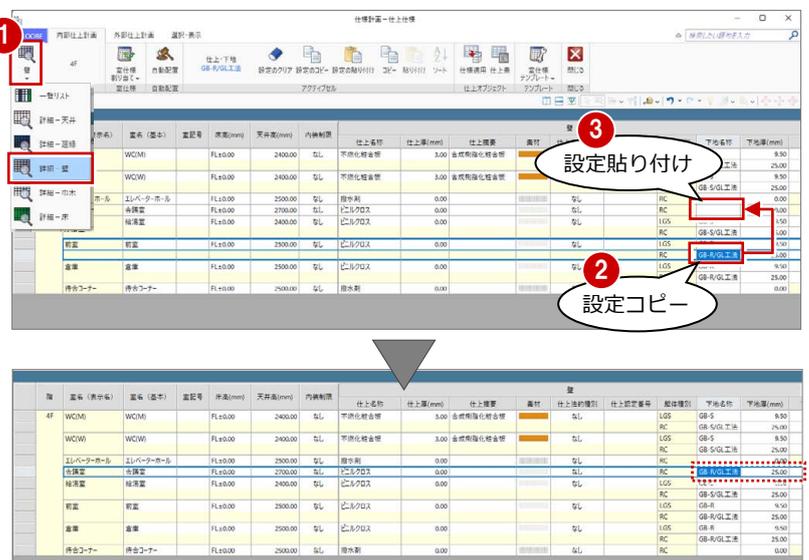
「仕上」グループ名の横にある矢印をクリックすると、「仕上仕様」を起動したときに最初に表示するタブを設定できます。これが「内部仕上表」になっていると、仕上が配置されているときは「内部仕上表」タブが開きます。



壁下地の仕様を変更する

会議室の壁下地の設定も変更しましょう。会議室の躯体種別はRCのため、前室のRCに設定されている下地を会議室にコピーします。

- ① 「一覧」メニューから「詳細-壁」を選びます。
- ② 前室で躯体種別が「RC」の下地名称のセルを選択し、右クリックして「設定コピー」を選びます。
- ③ 会議室の壁仕上のセルを選択し、右クリックして「設定貼り付け」を選びます。下地名称と下地厚が設定されます。



1 仕上仕様の変更

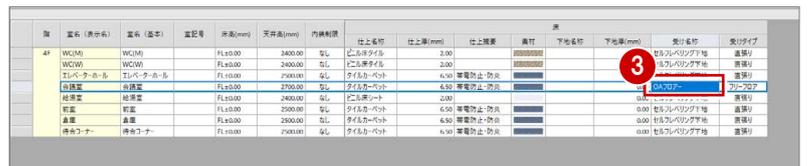
床下地の仕様を変更する

会議室の床下地をモルタルからフリーアクセスフロアに変更しましょう。

- 1 「詳細-床」を表示します。
- 2 会議室の受けタイプのセルをクリックして、「フリーフロア」に変更します。



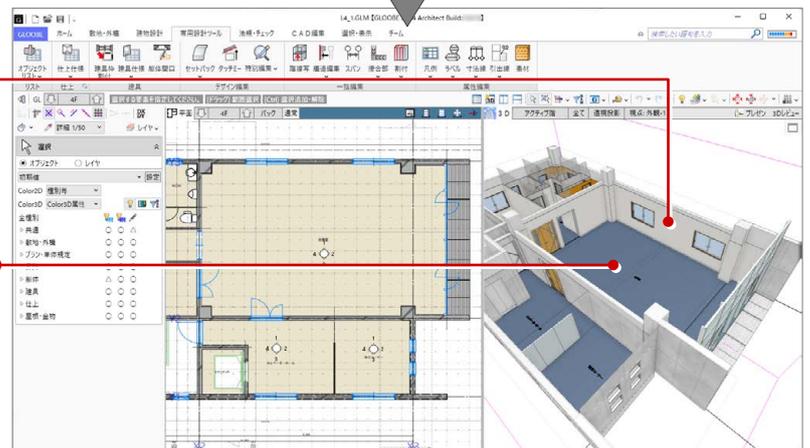
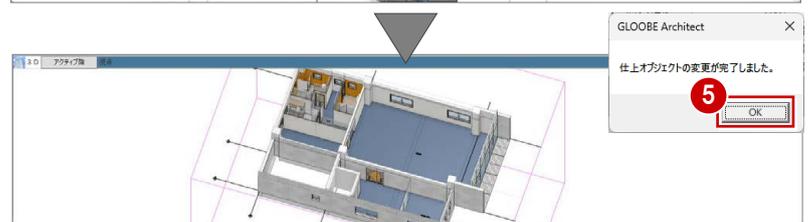
- 3 会議室の受け名称のセルをクリックして、「OAフロア」と入力します。



設定した仕様で更新する

設定した仕上・下地の仕様で、配置されている仕上データを更新しましょう。

- 1 「上下に並べて表示」をクリックします。
- 2 3Dビューに切り替えます。
- 3 会議室を選択していることを確認して、「仕様適用」をクリックします。
- 4 範囲を「対象スペース」に変更して、「OK」をクリックします。
- 5 確認画面で「OK」をクリックします。
- 6 「閉じる」をクリックします。入力画面に戻り、仕上データが更新されたことを確認できます。



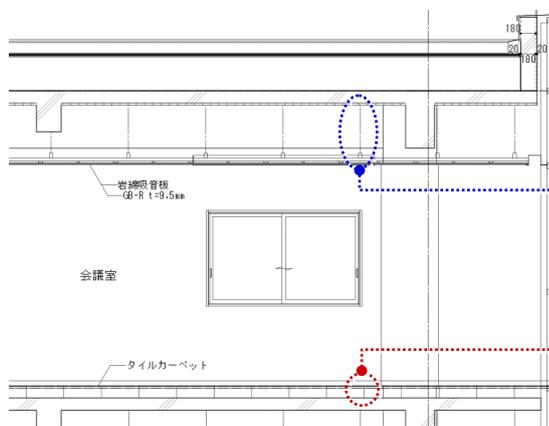
受けタイプ・受け名称の設定について

床下地や天井下地で設定した受けタイプは、矩計図に反映されます。
矩計図の作図表現（受け材）で、描画タイプの設定ができます。

The screenshot shows the software interface for floor construction. The top part displays a 3D/2D view of the floor structure with various layers and materials. Below this is a table with columns for room name, room number, floor level, and various construction parameters like floor height, ceiling height, and material types. A red box highlights the '受けタイプ' (Receiving Type) column in the table, and a blue box highlights the '受け名称' (Receiving Name) column. A red arrow points from the '受けタイプ' column to the '受け名称' column.

This dialog box shows the drawing expression settings for the floor substrate. It includes options for '描画タイプ' (Drawing Type) and '受け名称' (Receiving Name). A red box highlights the '受け名称' field, which is set to 'セルフレベリング下地' (Self-leveling substrate).

This dialog box shows the drawing expression settings for the ceiling substrate. It includes options for '描画タイプ' (Drawing Type) and '受け名称' (Receiving Name). A blue box highlights the '受け名称' field, which is set to 'セルフレベリング下地' (Self-leveling substrate).



※ 作図表現で設定した描画タイプで作図されます。

また、床下地や天井下地で設定した受け名称は、内部仕上表に反映されます。
内部仕上表の作図表現で、項目やスタイルの設定ができます。

The screenshot shows the software interface with the '内部仕上表' (Internal Finishing Table) open. The table lists various construction items and their specifications. A red box highlights the '受け名称' (Receiving Name) column, and a red arrow points from this column to the '内部仕上表' dialog box below.

This dialog box shows the settings for the internal finishing table. It includes options for '項目' (Item) and 'スタイル' (Style). A red box highlights the '項目' field, which is set to 'セルフレベリング下地' (Self-leveling substrate).

階	室名 (表示名)	室名 (基本)	室記号	床高(mm)	天井高(mm)	内装材	仕上名称	仕上厚(mm)	仕上位置	素材	下地名称	下地厚(mm)	受け名称	受けタイプ
4F	WC(M)	WC(M)		FL±0.00	2400.00	なし	セルフレベリング下地	2.00	下地	セルフレベリング下地	0.00	セルフレベリング下地	セルフレベリング下地	選択済
	WC(W)	WC(W)		FL±0.00	2400.00	なし	セルフレベリング下地	2.00	同上	セルフレベリング下地	0.00	セルフレベリング下地	セルフレベリング下地	選択済
	エレベーターホール	エレベーターホール		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50	同上	タイルカーペット	6.50	タイルカーペット	タイルカーペット	選択済
	会議室	会議室		FL±0.00	2700.00	なし	セルフレベリング下地	2.00	同上	セルフレベリング下地	0.00	セルフレベリング下地	セルフレベリング下地	選択済
	結露室	結露室		FL±0.00	2400.00	なし	セルフレベリング下地	2.00	同上	セルフレベリング下地	0.00	セルフレベリング下地	セルフレベリング下地	選択済
	前室	前室		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50	同上	タイルカーペット	6.50	タイルカーペット	タイルカーペット	選択済
	廊下	廊下		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50	同上	タイルカーペット	6.50	タイルカーペット	タイルカーペット	選択済
	待合コーナー	待合コーナー		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50	同上	タイルカーペット	6.50	タイルカーペット	タイルカーペット	選択済

This dialog box shows the settings for the internal finishing table. It includes options for '項目' (Item) and 'スタイル' (Style). A red box highlights the '項目' field, which is set to 'セルフレベリング下地' (Self-leveling substrate).

1-3 スラブ・梁のレベル変更

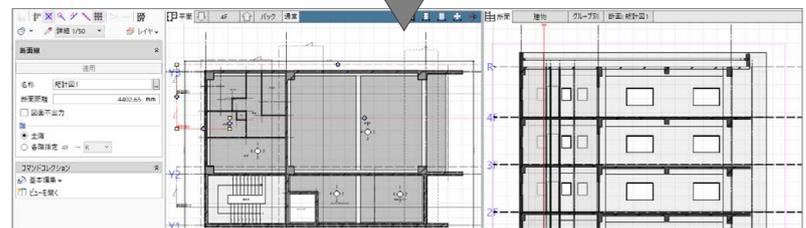
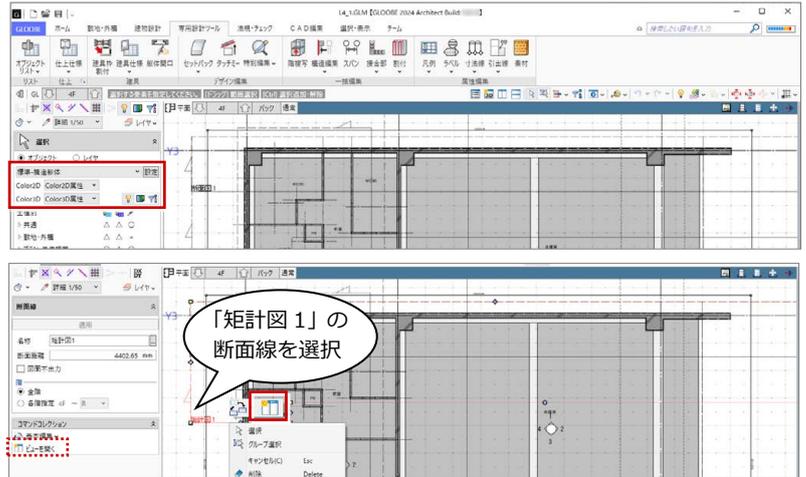
※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

表示テンプレート：「標準－構造躯体」

Color2D：Color2D 属性

断面ビュー：矩計図 1

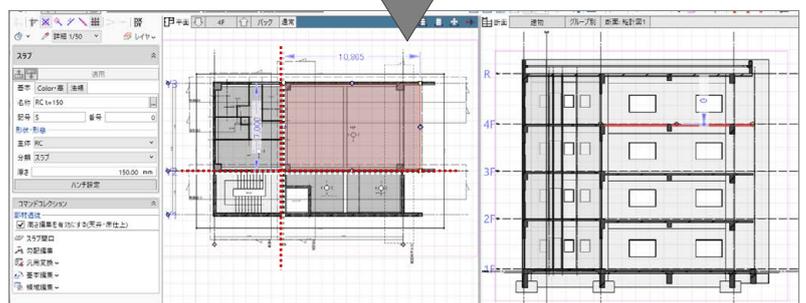
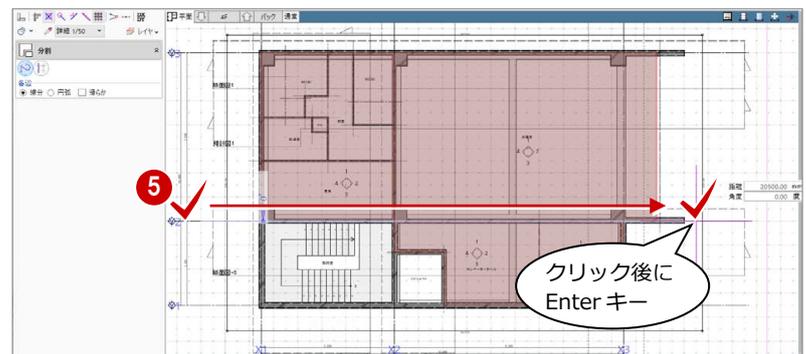
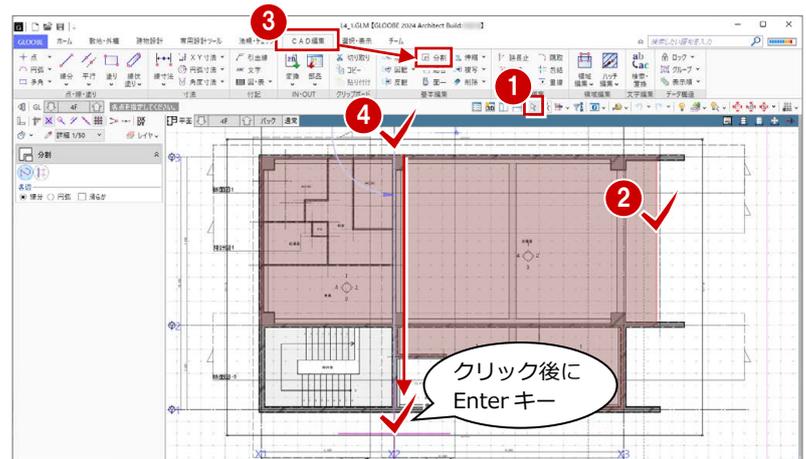
(「矩計図 1」の断面線を選択し、右クリックして「ビューを開く」を選びます。)



スラブを分割する

会議室の床下地をフリーアクセスフロアに変更するため、その部分のスラブの高さを変更しましょう。まずは、会議室の領域でスラブを分割します。

- ①② スラブを選択します。
- ③ 「CAD 編集」タブをクリックして、「分割」を選びます。
- ④ X2 通り上の点を順にクリックして、最後に Enter キーを押します。
- ⑤ 同様にして、Y2 通りでも分割します。



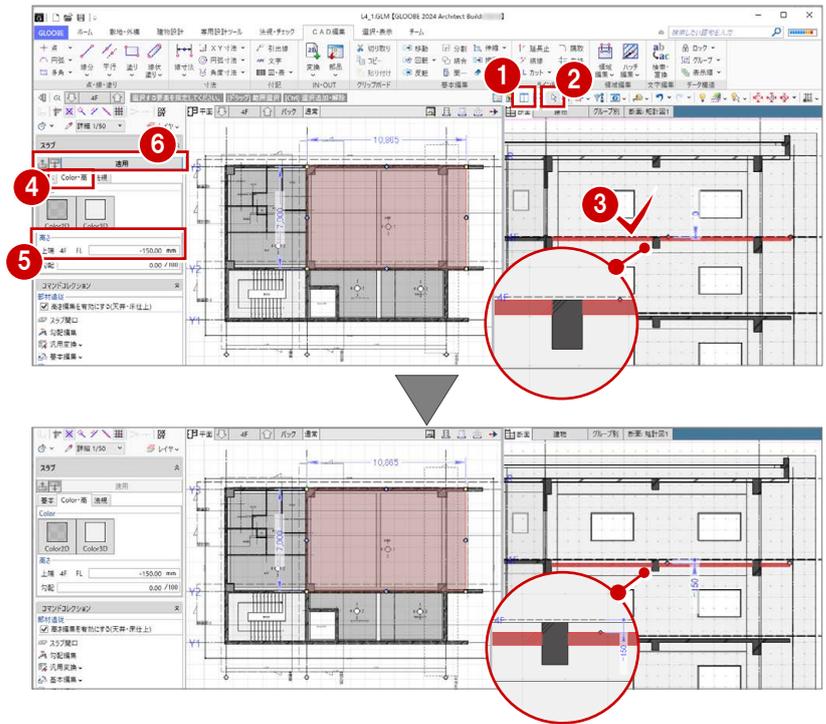
スラブのレベルを変更する

- ① 「左右に並べて表示」をクリックして、平面ビューと断面ビューを表示します。
- ②③ 会議室部分のスラブを選択します。
- ④⑤ 「Color・高」タブをクリックして、高さを変更します。
上端：4F FL-150 mm
- ⑥ 「適用」をクリックします。

高さの基準レベルは、クリックすることで「SL」「FL」「窓上端高」「梁天」と切り替わります。

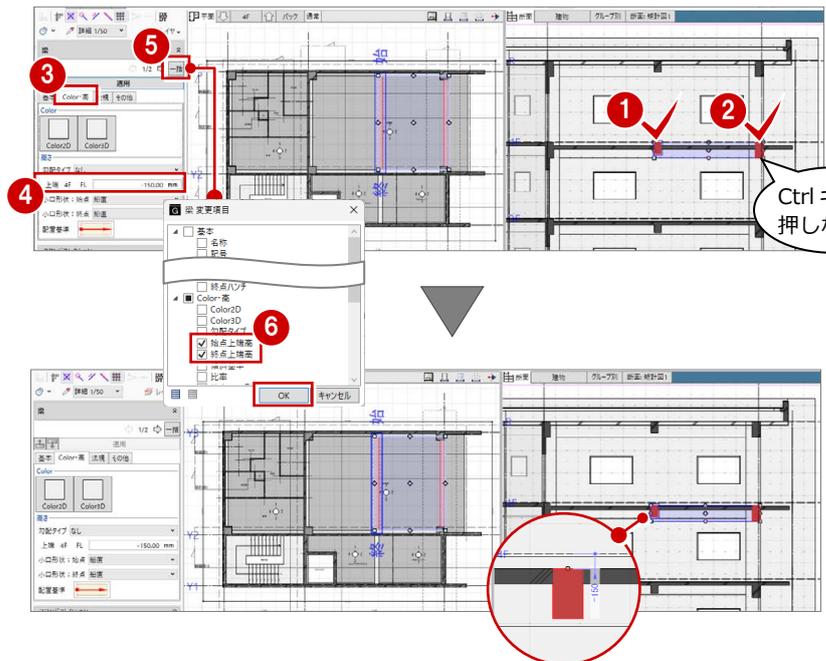
高さ		
上端	4F FL	-150.00 mm
勾配		0.00 / 100

クリックして基準を変更



梁のレベルを変更する

- ①② Ctrl キーを押しながら、右図の梁を選択します。
- ③④ 「Color・高」タブをクリックして、高さを変更します。
上端：4F FL-150 mm
- ⑤ 「一括」をクリックします。
- ⑥ 「始点上端高」「終点上端高」がONであることを確認して、「OK」をクリックします。



Ctrl キーを押しながら

壁のレベルを下げた場合の平面ビュー表示について

壁や壁仕上、建具などは、現在階の SL から上部梁天までの範囲を平面ビューに表示しており、例えば上階の壁が梁天より低い場合、上階の壁も点線で表示されます。

レベルを下げた上階の壁などを平面ビューに表示させたくない場合は、作図表現（縮尺・レベル他）の「描画範囲（他階データ）」を設定することで、描画範囲を調整できます。



【描画範囲 上部 (梁天) : 0】



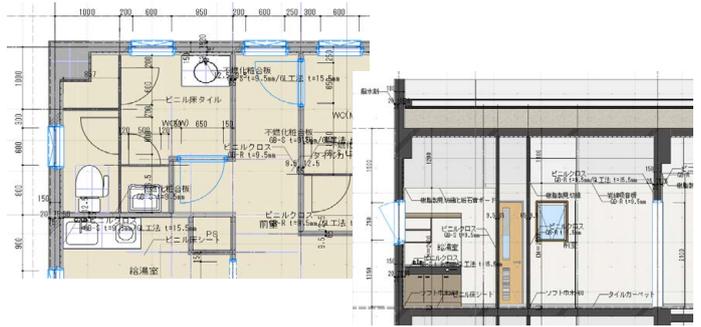
【描画範囲 上部 (梁天) : -450】

2 寸法線・引出線の入力

入力済みのオブジェクト情報とリンクした、寸法線と引出線を入力しましょう。入力ミスや仕様ミスの確認ができます。

【解説用データ】：L4_2.GLM

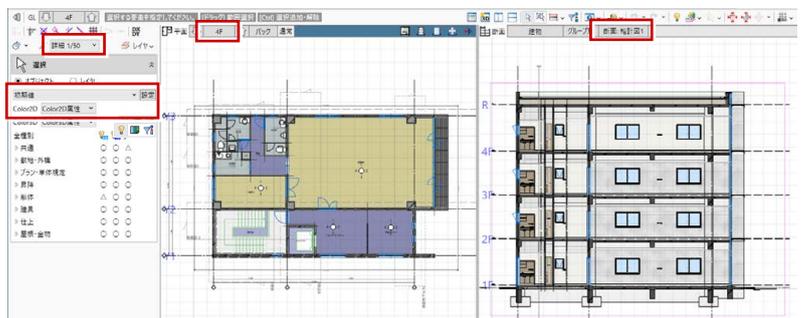
※ 1~3階の平面ビューと「矩計図2」の断面ビューには、寸法線・引出線を入力してあります。



2-1 詳細図寸法線・引出線の入力

※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

- 平面ビューの表示階：「4F」
- 断面ビュー：矩計図 1
- 縮尺：詳細 1/50
- 表示テンプレート：「初期値」
- Color2D：Color2D 属性



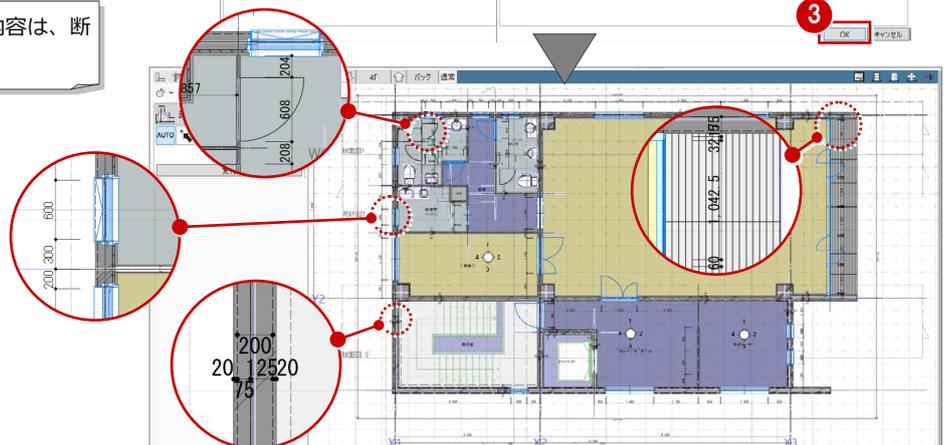
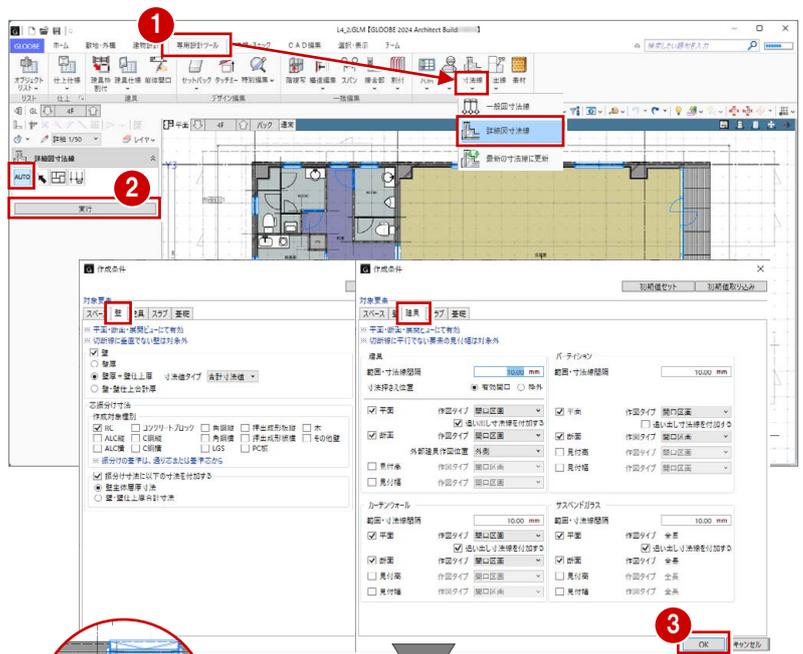
詳細図寸法線を入力する

平面ビューを最大化して、壁や建具などに寸法線を入力しましょう。

壁・建具の寸法を自動入力する

- 1 「専用設計ツール」タブをクリックして、「寸法線」メニューから「詳細図寸法線」を選びます。
- 2 入力モードが「AUTO」であることを確認して、「実行」をクリックします。
- 3 「作成条件」ダイアログの「壁」「建具」タブの内容を確認して、「OK」をクリックします。

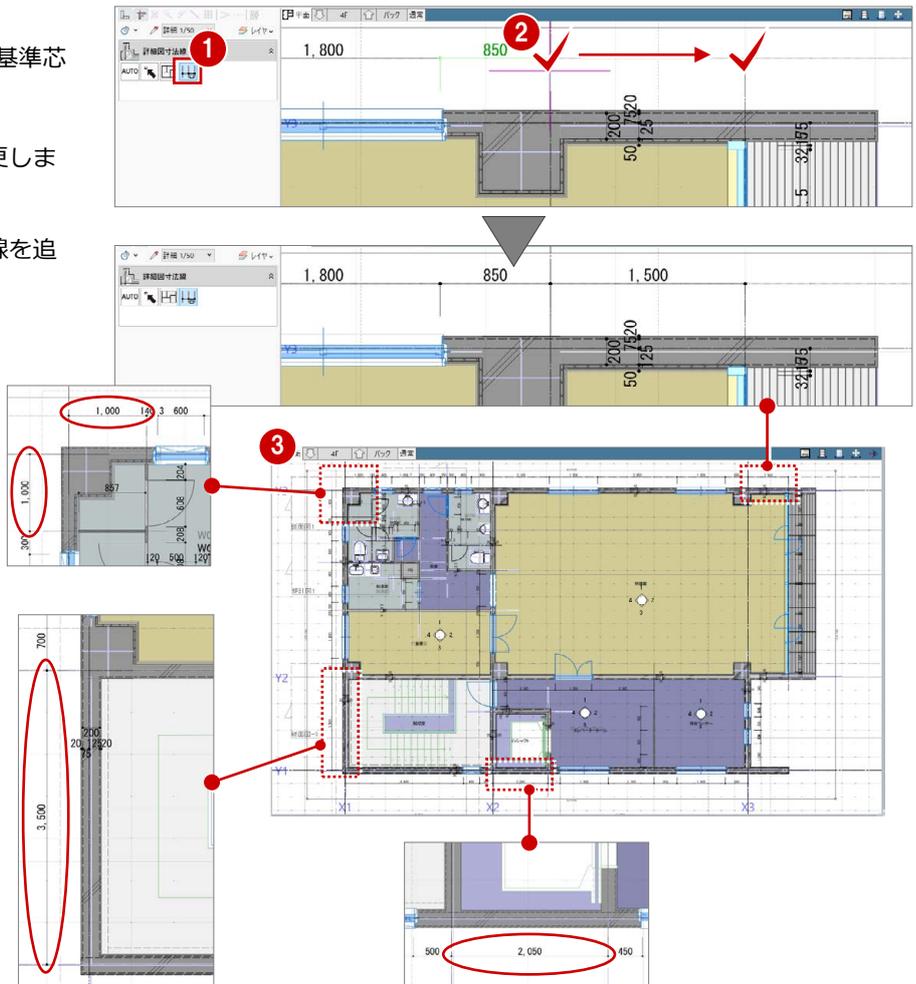
「スペース」「スラブ」「基礎」タブの内容は、断面・展開ビューで有効です。



追い出し寸法を追加する

入力した詳細図寸法線と、通り芯または基準芯の間に寸法線を追加しましょう。

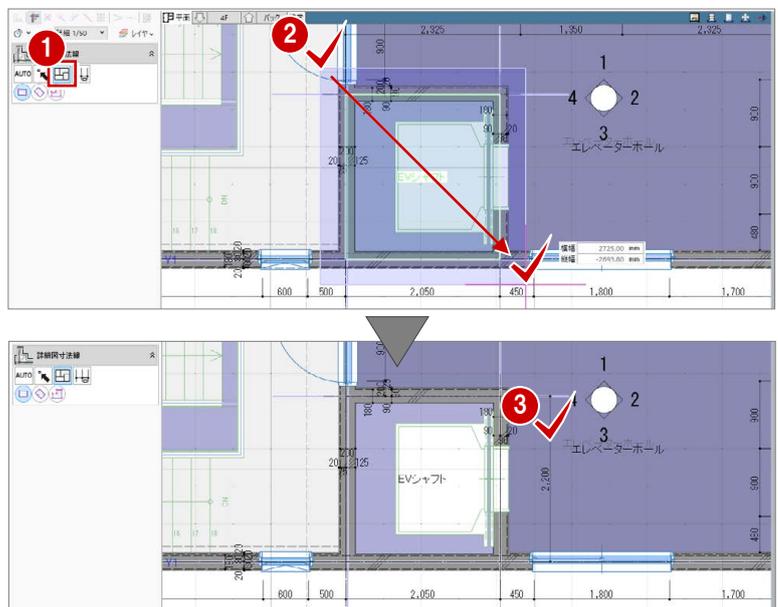
- ① 入力モードを「追い出し寸法」に変更します。
- ② 詳細図寸法線をクリックして、寸法線を追加する位置をクリックします。
※ 通り芯、基準芯、詳細図寸法線を指定できます。
- ③ 同様にして、右図の位置に追い出し寸法を追加します。



スペースの寸法を入力する

EV シャフトの寸法線を追加しましょう。

- ① 入力モードを「スペース参照」に変更します。
- ② 寸法線を入力するスペースをすべて含むように範囲を指定します。
- ③ 寸法線を表示する位置をクリックします。



詳細図寸法線・引出線について

詳細図寸法線・引出線は「詳細」表現のときに表示され、「標準」「簡略」表現では表示されません。

文字のサイズやフォント、表現などは、作図表現（寸法線・引出線）の「オブジェクト寸法線」「オブジェクト引出線」タブで設定します。

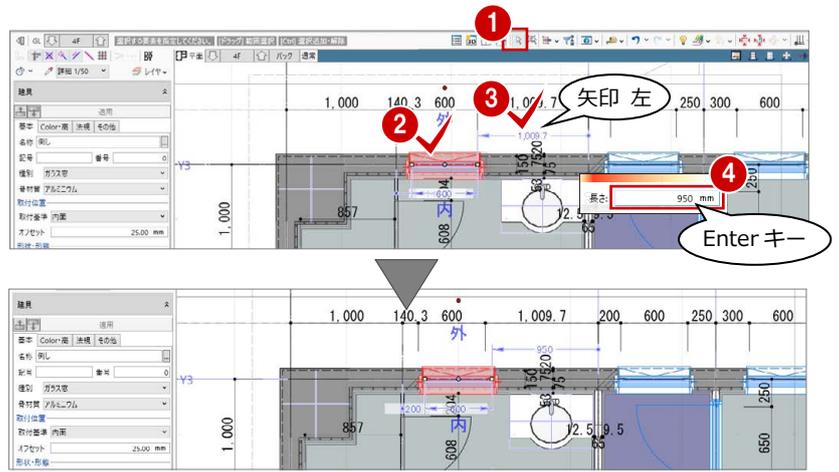


寸法を調整する

寸法を確認して、寸法値がおかしいところがあれば編集しましょう。ここでは、WC (W) の外倒し窓が半端な位置にあるため、位置を調整して寸法値を更新しましょう。

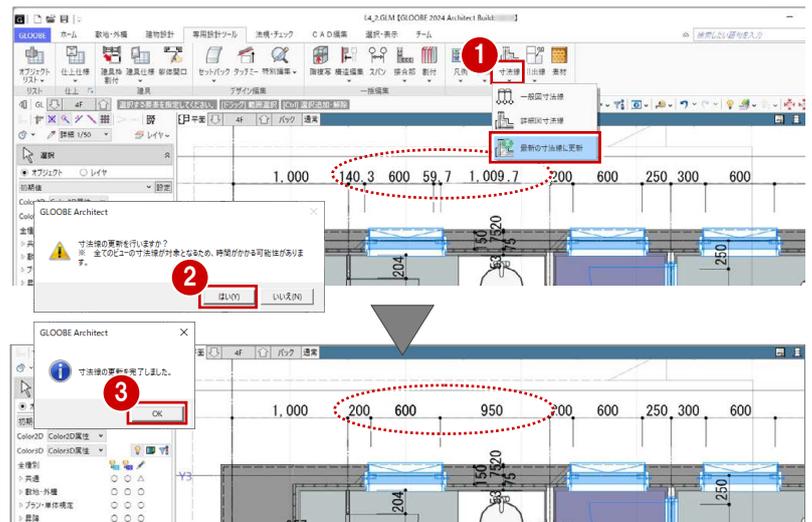
建具の位置を調整する

- ① WC (W) の外倒し窓を選択します。
- ② 補助寸法線上にマウスカーソルを移動し、矢印が左向きでクリックします。
- ③ エディットボックスに「950」と入力して Enter キーを押します。



変更を寸法線に反映する

- ① 「寸法線」メニューから「最新の寸法線に更新」を選びます。
- ② 確認画面で「はい」をクリックします。
- ③ 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



詳細図引出線を入力する

壁仕上・床仕上に引出線を入力しましょう。

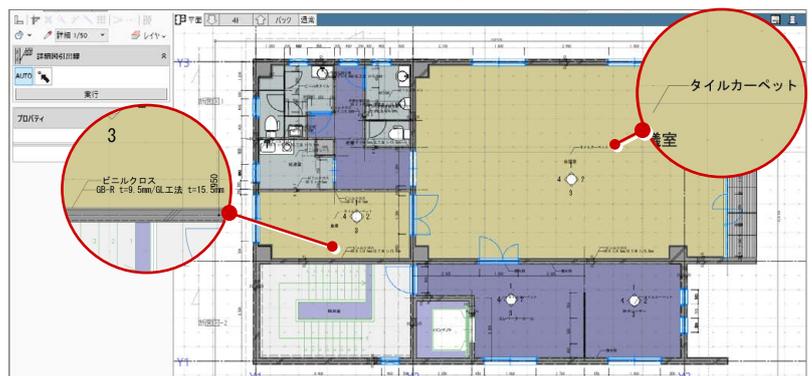
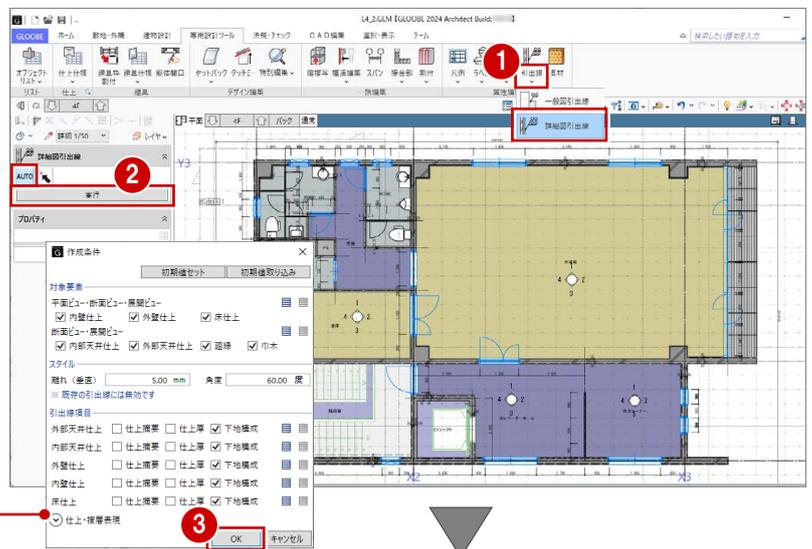
- ① 「引出線」メニューから「詳細図引出線」を選びます。
- ② 入力モードが「AUTO」であることを確認して、「実行」をクリックします。
- ③ 「作成条件」ダイアログの内容を確認して、「OK」をクリックします。

※「仕上・複層表現」をクリックすると、厚さや複層間などの表現を設定できます。

ビルドクロス
08-R t=9.5mm
GL工法 t=15.5mm

ビルドクロス
08-R t=9.5mm/GL工法 t=15.5mm

【複層間文字：改行】 【複層間文字：任意文字 /】



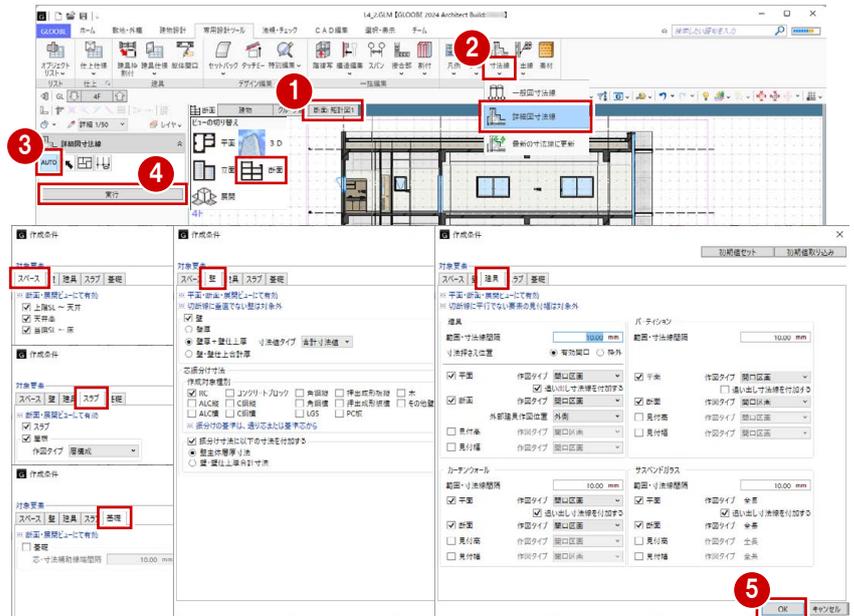
オブジェクトのプロパティを変更した場合、その時点で詳細図引出線の内容は更新されます。

断面ビューで入力する

断面ビューで詳細図寸法線・引出線を入力しましょう。

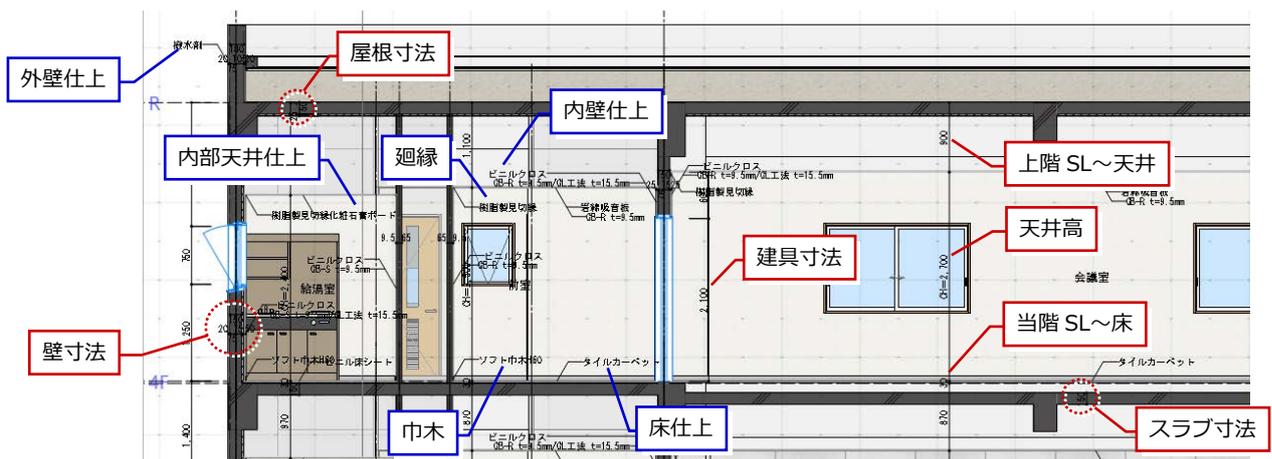
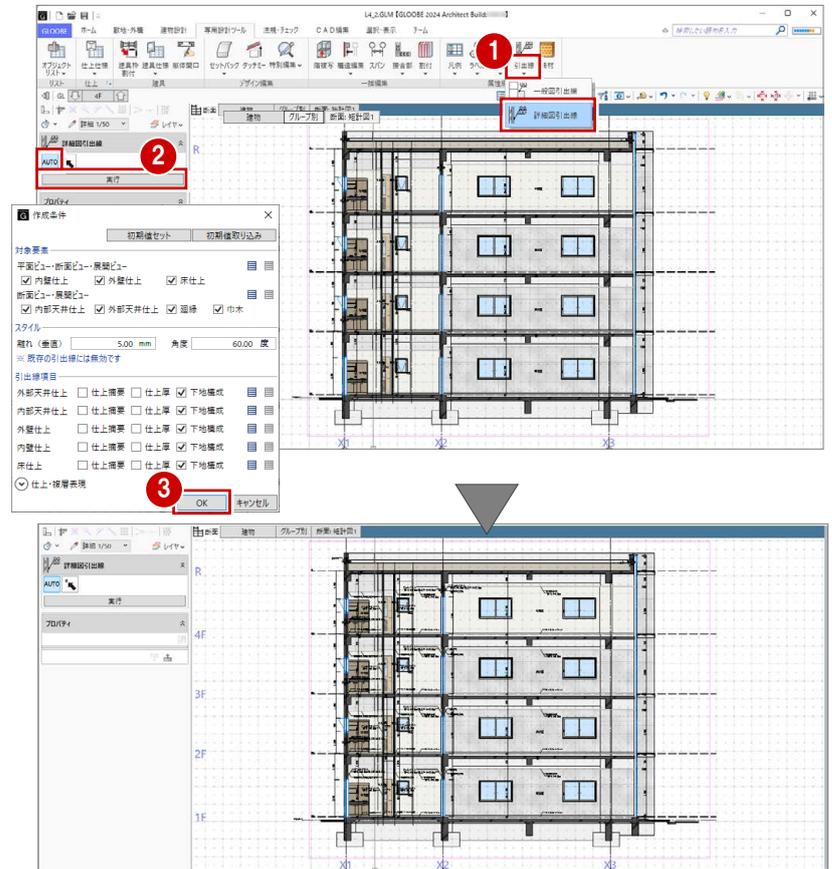
詳細図寸法線を入力する

- 1 「矩計図 1」の断面ビューを開きます。
- 2 「寸法線」メニューから「詳細図寸法線」を選びます。
- 3 入力モードを「AUTO」に変更します。
- 4 「実行」をクリックします。
- 5 「作成条件」ダイアログの「スペース」～「基礎」タブの内容を確認して、「OK」をクリックします。



詳細図引出線を入力する

- 1 「引出線」メニューから「詳細図引出線」を選びます。
- 2 入力モードが「AUTO」であることを確認して、「実行」をクリックします。
- 3 「作成条件」ダイアログの内容を確認して、「OK」をクリックします。



2-2 設計寸法の調整

※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

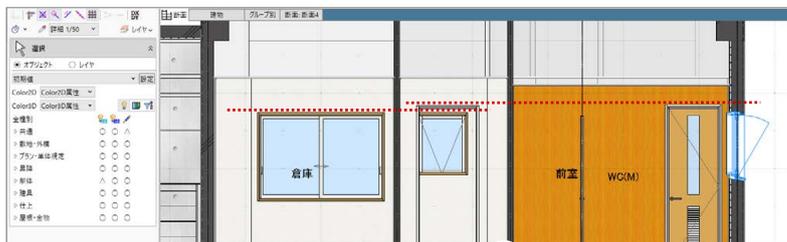
断面ビュー：断面 4



窓高を変更する

「断面 4」の断面ビューを確認すると、窓上端高とドア上端高が揃っていません。

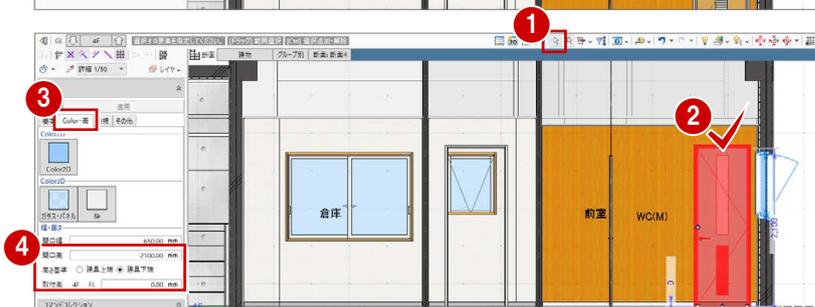
ここでは、ドア上端高に合わせて窓上端高を変更してみましょう。



建具の高さを確認する

①～④ ドアを選択して、ドア上端高を確認します。

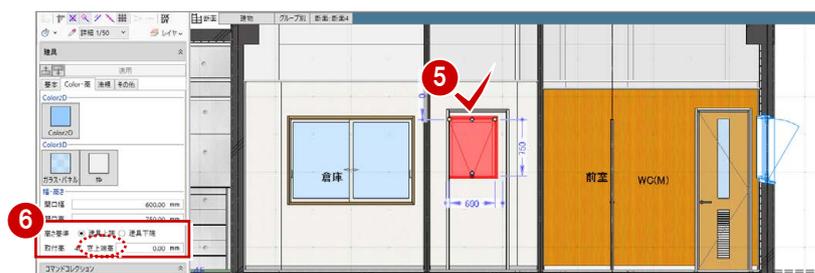
建具の下端が FL±0 mm で上端高は 2100 mm であることがわかります。



⑤⑥ 窓を選択して、高さを確認します。

建具の上端が「窓上端高」を参照していることがわかります。

「窓上端高」は、「階設定」で設定しているユーザーレベルです。



ユーザーレベルを変更する

① 「ホーム」タブをクリックして、「階設定」を選びます。

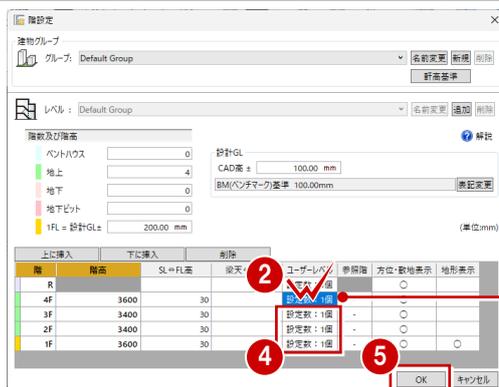
② 4Fのユーザーレベルのセルをダブルクリックします。

③ 「窓上端高」のレベルを「2100」に変更して、「OK」をクリックします。

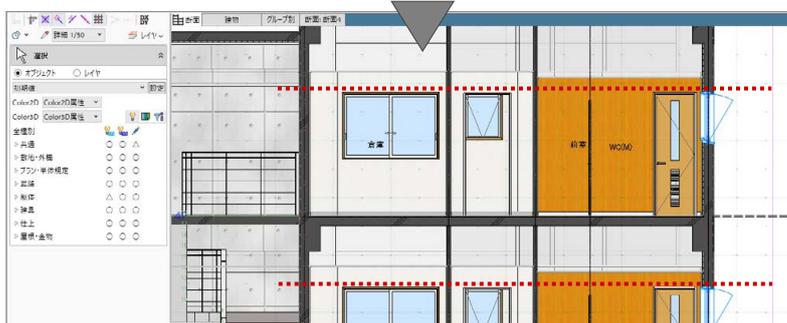
④ 同様に、3F～1Fのユーザーレベルも「窓上端高：2100」に変更します。

⑤ 「OK」をクリックします。

「窓上端高」を参照している建具の上端高が変更され、各階の窓上端高とドア上端高が揃ったことを確認できます。



2000 ⇒ 2100
に変更



パーティションを変更する

WC (W) のトイレパーティションのパネル幅が半端な数値になっているため、調整して寸法値を更新しましょう。

パーティションのパネル幅を変更する

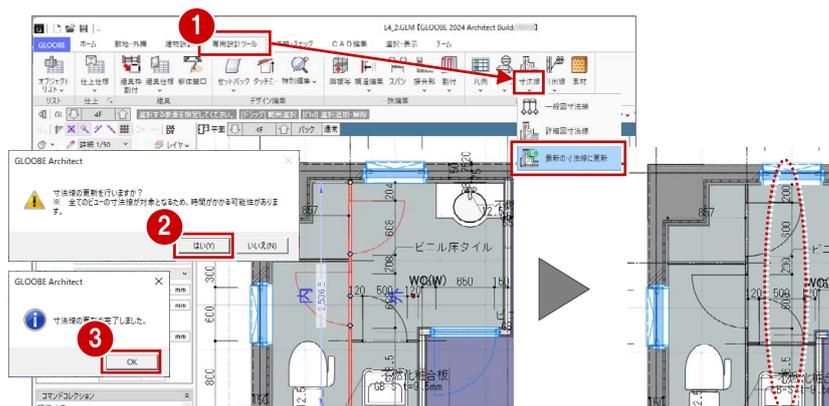
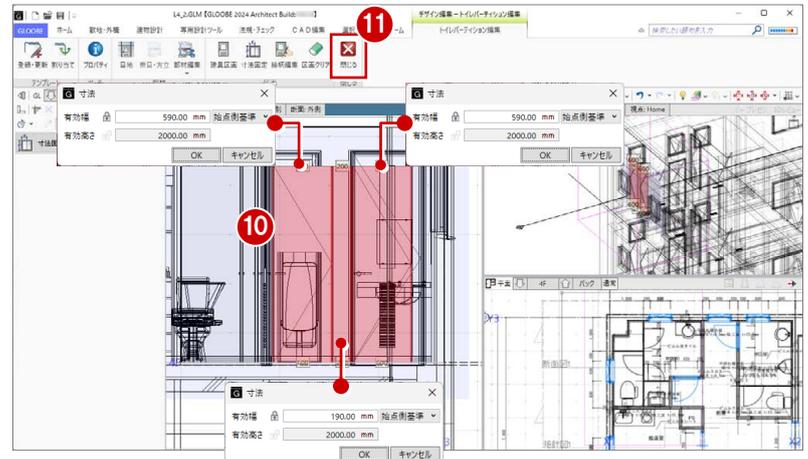
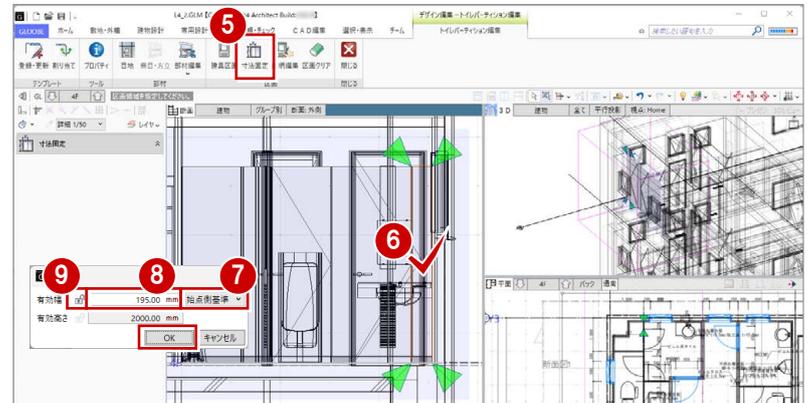
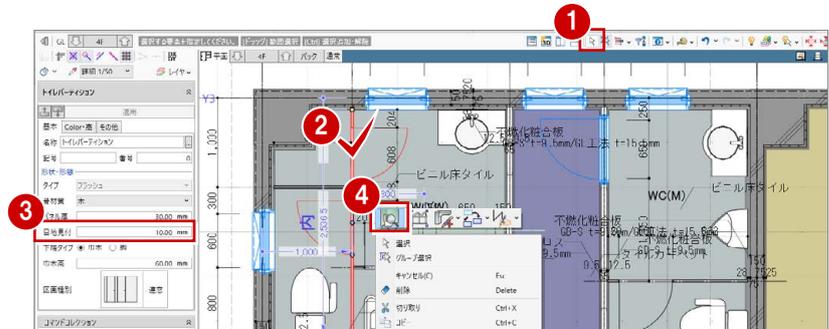
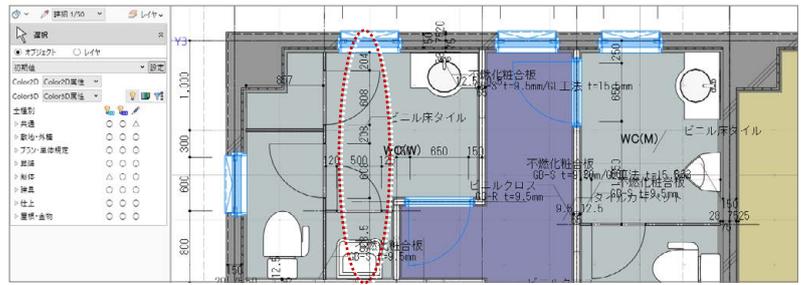
- ①② 平面ビューを最大化して、WC (W) のトイレパーティションを選択します。
- ③ パーティションの目地幅を確認します。
目地見付：10 mm
- ④ 右クリックして、「トイレパーティション編集」を選びます。
「トイレパーティション編集」タブが開きます。
- ⑤ 「寸法固定」をクリックします。
- ⑥ 右端のパネルをクリックします。
- ⑦ 寸法変更の基準を「始点側基準」に変更します。
- ⑧ 寸法を「195」に変更します。
- ⑨ 「寸法固定」をONにして、「OK」をクリックします。

パーティションの寸法は、有効開口ではなく、目地も含んだ芯々の値で表示されます。そのため、ここではドア側の目地幅 $10\text{ mm} / 2 = 5\text{ mm}$ を考慮して、パネルの幅を「 $200 - 5 = 195$ 」としています。

- ⑩ 同様に、他のパネルの寸法も「始点側基準」で変更し、「寸法固定」をONにします。
ドア幅：590 mm (= $600 - \text{両側の目地幅 } 10$)
パネル幅：190 mm (= $200 - \text{両側の目地幅 } 10$)
ドア幅：590 mm (= $600 - \text{両側の目地幅 } 10$)
- ⑪ 「閉じる」をクリックします。

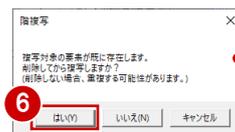
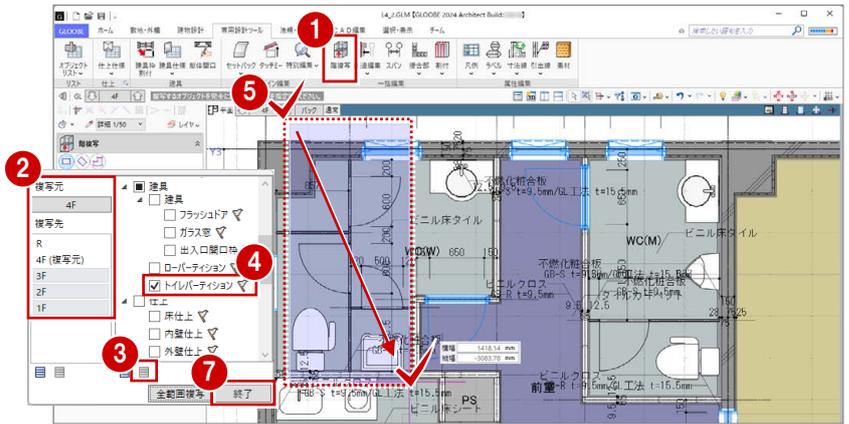
変更を寸法線に反映する

- ① 「専用設計ツール」タブをクリックして、「寸法線」メニューから「最新の寸法線に更新」を選びます。
- ② 確認画面で「はい」をクリックします。
- ③ 完了の確認画面で「OK」をクリックします。

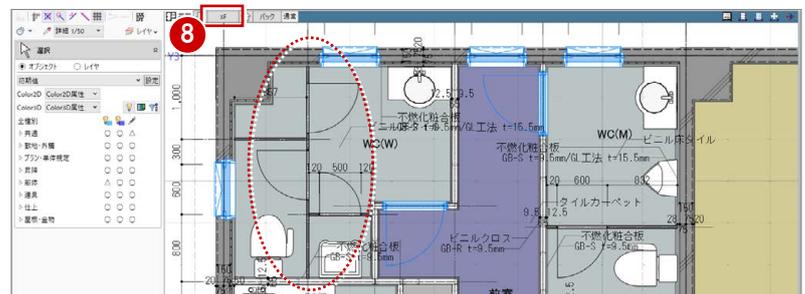


パーティションを他階に複写する

- ① 「階複写」をクリックします。
- ② 複写元を「4F」、複写先はCtrl キーを押しながら「3F」「2F」「1F」に設定します。
- ③④ 複写する部材を選びます。
ここでは、「全オフ」をクリックして、「トイレパーティション」にチェックを付けます。
- ⑤ WC (W) のトイレパーティションが含まれるように範囲を指定します。
- ⑥ 確認画面で「はい」をクリックします。
- ⑦ 「終了」をクリックします。
- ⑧ 3階を表示します。
トイレパーティションが複写され、元のトイレパーティションの寸法線が削除されたことを確認できます。

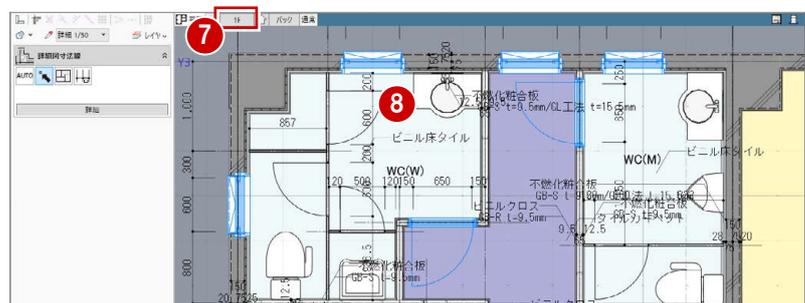
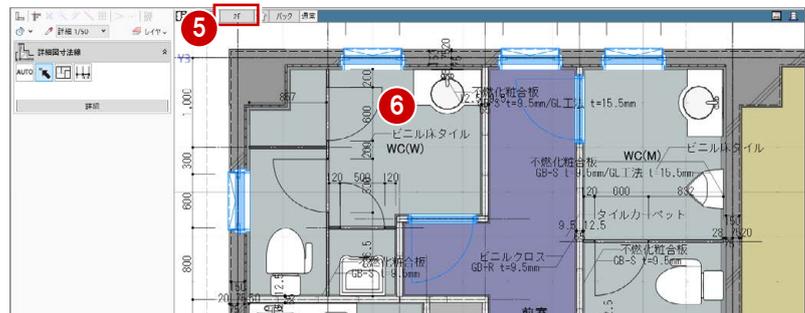
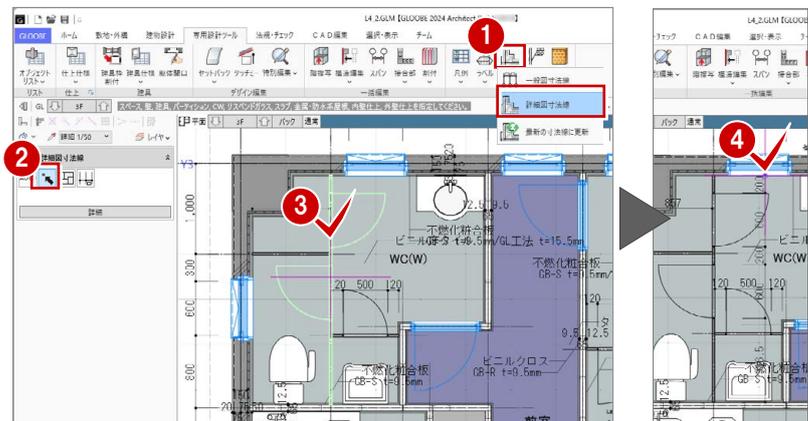


複写先に同じ部材が存在する場合は確認画面が表示されます。
削除してから複写する場合は「はい」、
削除せずに追加で複写する場合は「いいえ」をクリックします。



パーティションの寸法を入力する

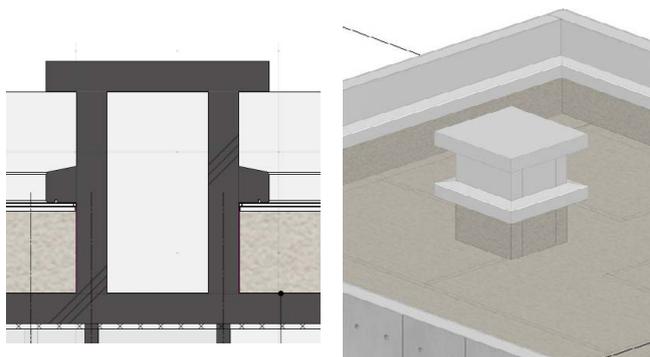
- ① 「寸法線」メニューから「詳細図寸法線」を選びます。
- ② 入力モードを「1点指定」に変更します。
- ③ 寸法の対象としてトイレパーティションをクリックします。
- ④ 寸法線を表示する位置をクリックします。
- ⑤～⑧ 同様にして、2階と1階のトイレパーティションにも寸法線を入力します。



3 はと小屋の入力

はと小屋の躯体、防水立ち上がり、防水止めアングルを入力しましょう。

【解説用データ】：L4_3.GLM



3-1 はと小屋の躯体入力

※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

平面ビューの表示階：「R」

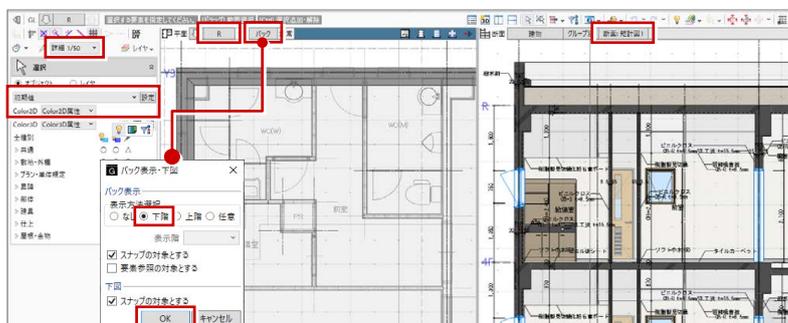
バック表示階：下階

断面ビュー：矩計図 1

縮尺：詳細 1/50

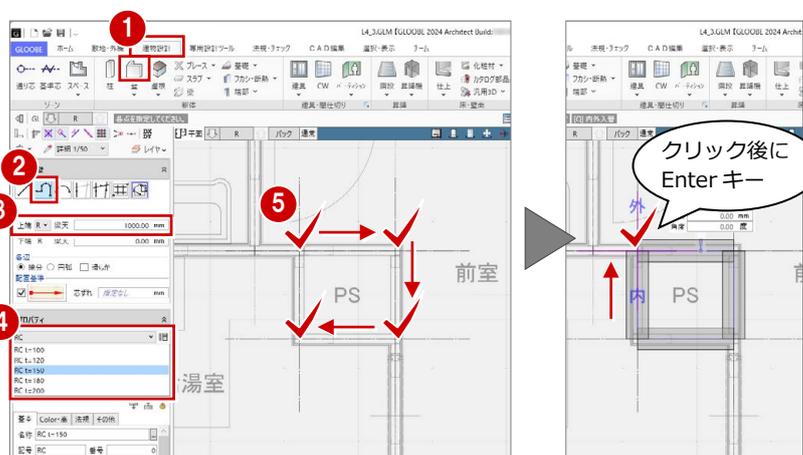
表示テンプレート：「初期値」

Color2D : Color2D 属性



壁を入力する

- ① 「建物設計」タブをクリックして、「壁」を選びます。
- ② 入力モードを「連続線 (円弧可)」に変更します。
- ③ 上端高を「R 梁天 1000 mm」に変更します。
- ④ テンプレートから「RC」の「RC t=150」を選びます。
- ⑤ PSの周囲 (基準芯の交点) を順にクリックし、最後に始点と同じ位置をクリックして、Enterキーを押します。



防水アゴを入力する

- 1 「壁」メニューから「防水アゴ」を選びます。
- 2 入力モードが「2点壁参照」であることを確認します。
- 3 高さ基準を「R 防水立ち上がり 0 mm」に変更します。

クリックして
基準を変更

このモデルには、「階設定」でR階にユーザーレベル「防水立ち上がり：450 mm」が設定されています。

名称	レベル (mm)
防水立ち上がり	450

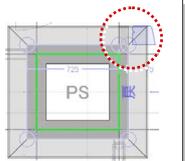
- 4 テンプレートから「RC 壁付き用」の「詳細形状」を選びます。

入力基準を防水アゴの下端に変更しましょう。

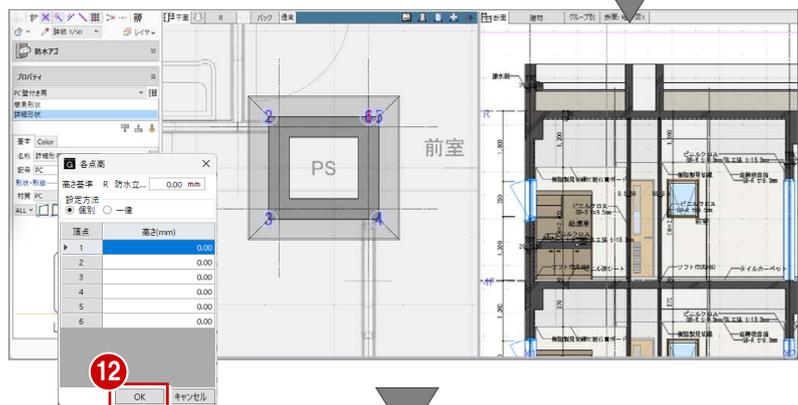
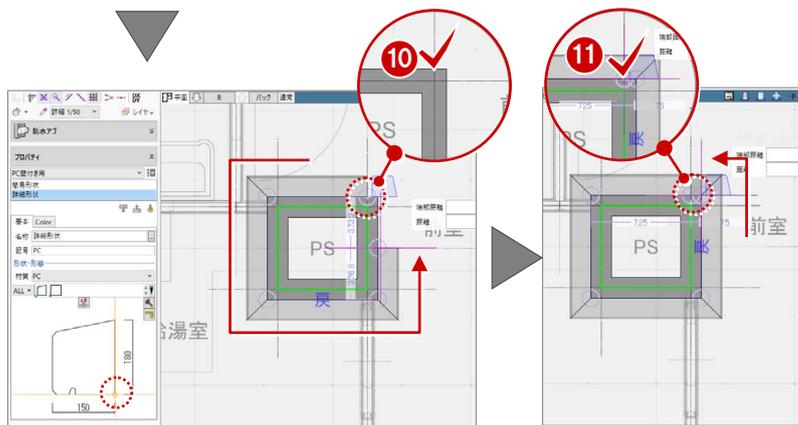
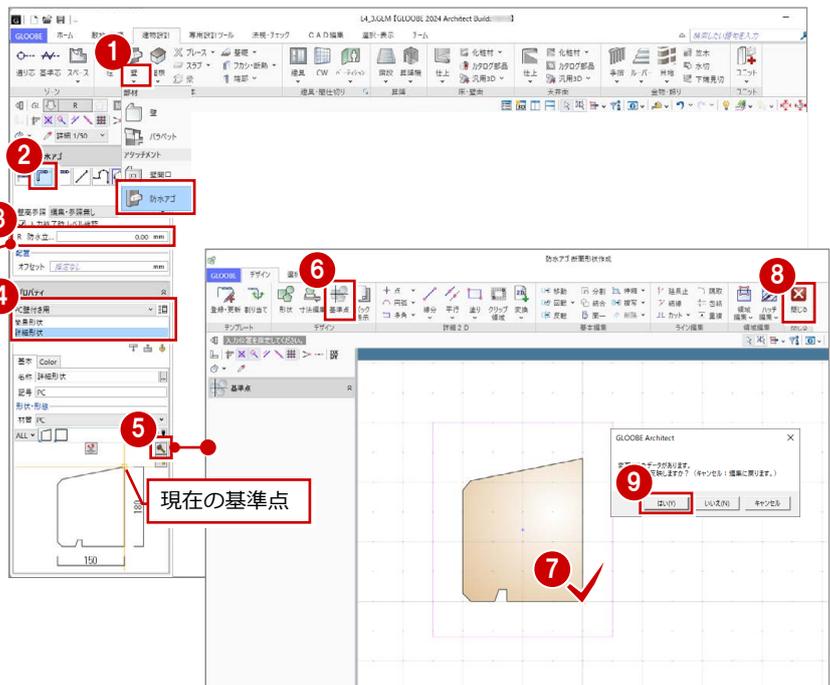
- 5 「形状作成」をクリックします。
- 6 「基準点」をクリックします。
- 7 基準として右図の位置をクリックします。
- 8 「閉じる」をクリックします。
- 9 確認画面で「はい」をクリックします。
入力基準が変わりました。

- 10 防水アゴの始点として、右図のようにPSの基準芯と壁面の交点をクリックします。
- 11 防水アゴが1周したところで、終点として始点と同じ位置をクリックします。

角から開始すると、防水アゴの開始点と終了点の取り合いがうまくかないため、ここでは辺の途中を開始点にしています。

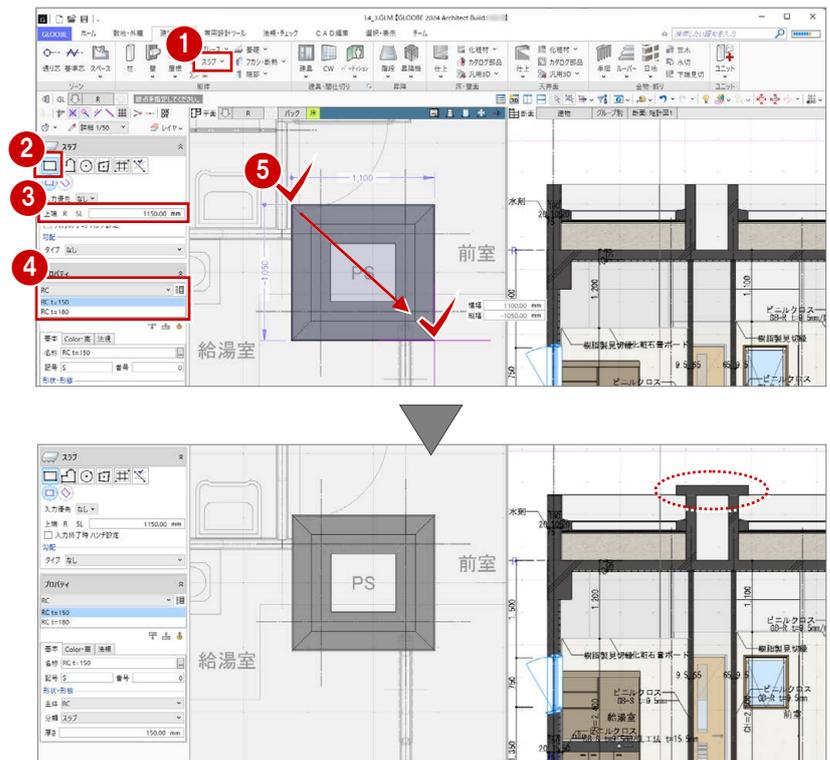


- 12 各点高（ここでは「0」のまま）を設定して、「OK」をクリックします。



スラブを入力する

- ① 「スラブ」をクリックします。
- ② 入力モードが「矩形」であることを確認します。
- ③ 上端を「R SL 1150 mm」に変更します。
(壁高 1000 mm + スラブ厚 150 mm = 1150 mm)
- ④ テンプレートから「RC」の「RC t=150」を選びます。
- ⑤ 防水アゴの外側をクリックしてスラブの領域を入力します。

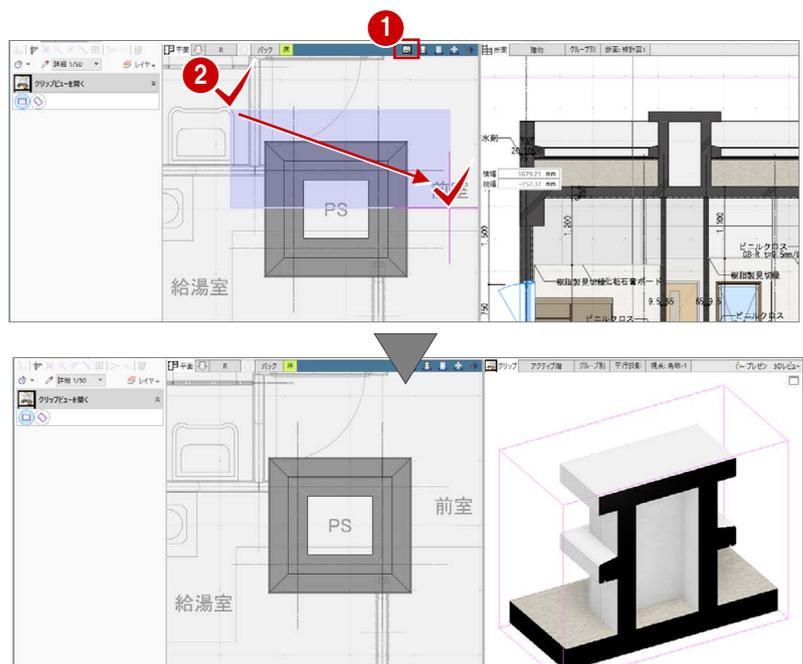


3-2 防水立ち上がりと防水止めアングルの入力

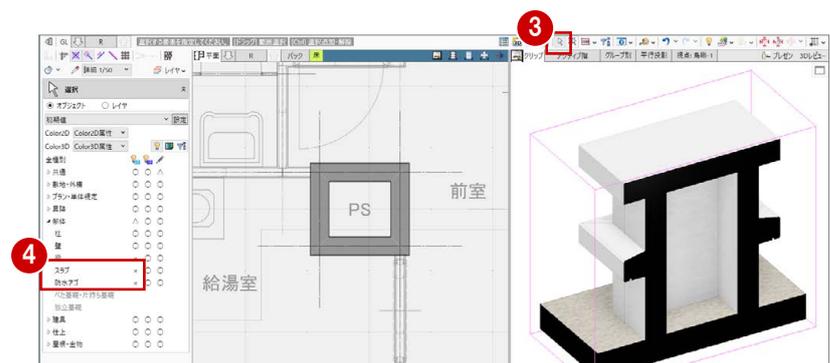
外壁仕上を入力する

はと小屋の仕上がりが見やすいように、クリップビューを開いて操作しましょう。

- ① 平面ビューツールバーの「クリップビューを開く」をクリックします。
- ② 右図のように、はと小屋の半分くらいの範囲を指定します。

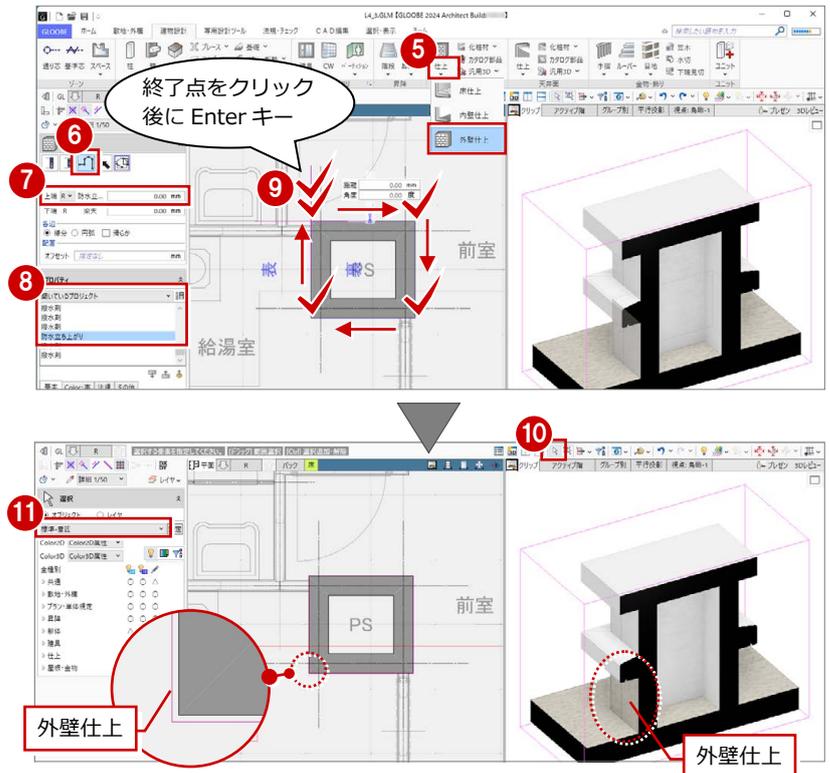


- ③④ 表示設定で「スラブ」と「防水アゴ」の「2D表示」を「×」にします。
はと小屋の壁が平面ビューに表示されます。



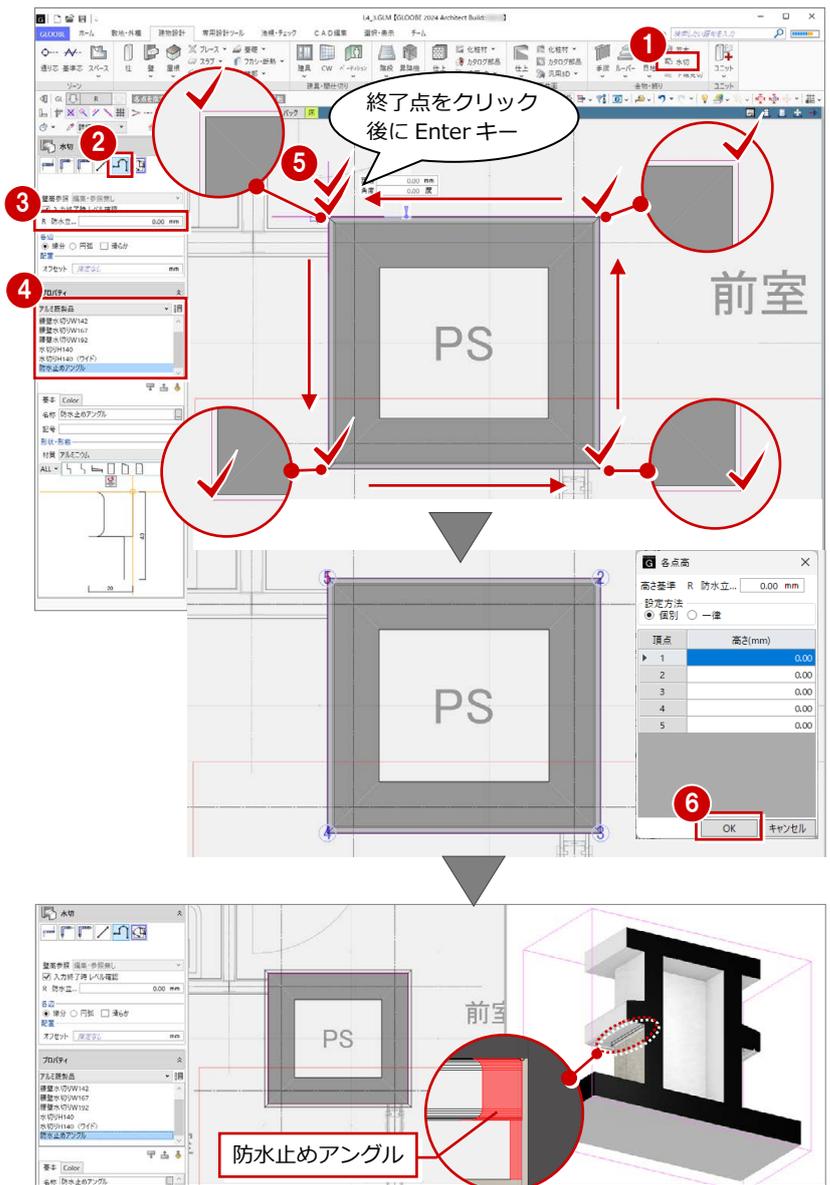
3 はと小屋の入力

- 5 「仕上」メニューから「外壁仕上」を選びます。
 - 6 入力モードを「連続線 (円弧可)」に変更します。
 - 7 上端高を「R 防水立ち上がり 0 mm」に変更します。
 - 8 テンプレートから「開いているプロジェクト」の「防水立ち上がり」を選びます。
- このモデルには、パラペット壁に「防水立ち上がり」の外壁仕上が入力されています。これを参照して、はと小屋にも同じ仕上を貼ります。
- 9 壁の周囲を順にクリックし、最後に始点と同じ位置をクリックして、Enter キーを押します。
 - 10 11 表示テンプレートから「標準 - 意匠」を選んで、入力した仕上を確認します。



水切を入力する

- 1 「水切」をクリックします。
- 2 入力モードを「連続線 (円弧可)」に変更します。
- 3 高さ基準を「R 防水立ち上がり 0 mm」に変更します。
- 4 テンプレートから「アルミ既製品」の「防水止めアングル」を選びます。
- 5 外壁仕上上の周囲を順にクリックし、最後に始点と同じ位置をクリックして、Enter キーを押します。
- 6 各点高 (ここでは「0」のまま) を設定して、「OK」をクリックします。



表示順を変更する

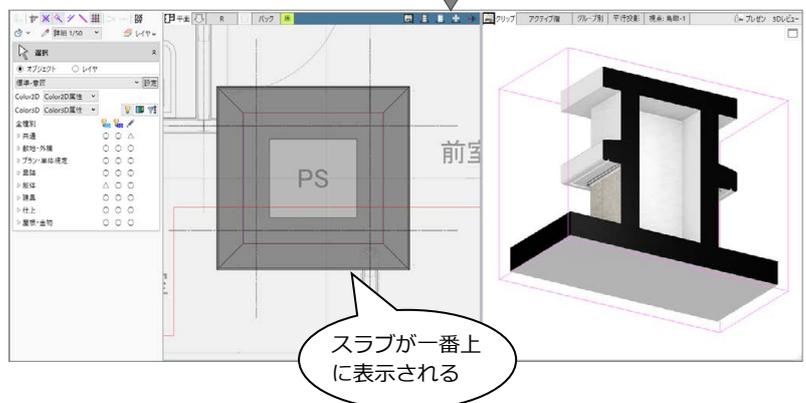
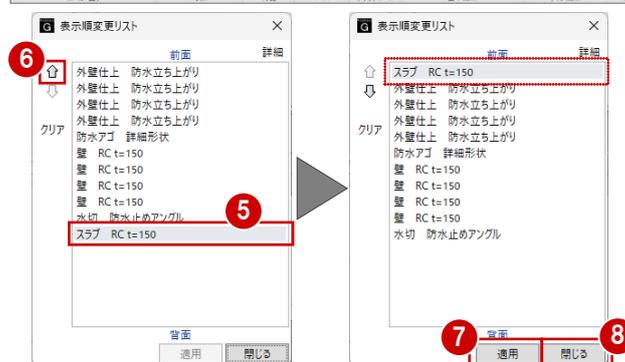
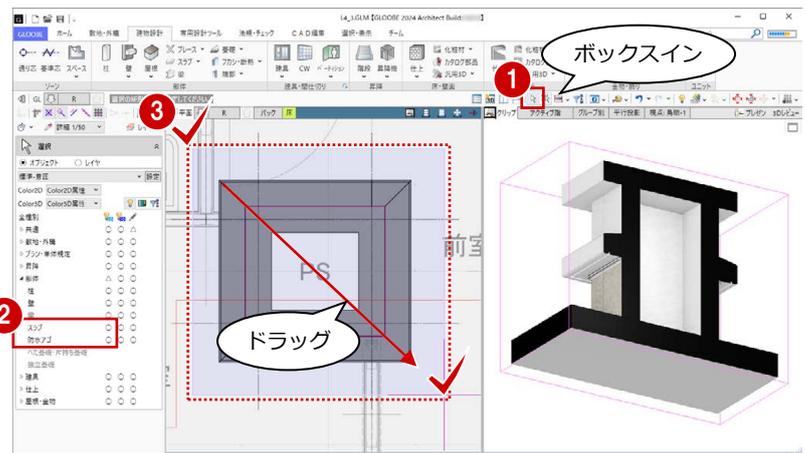
部材の高さに応じた表示順に変更しましょう。

- ①② 表示設定で「スラブ」と「防水アゴ」の「2D表示」を「○」にします。
- ③ はと小屋の部材をすべて選択します。
(選択モード：ボックスイン)
- ④ 「CAD 編集」タブをクリックして、「表示順変更」を選びます。
- ⑤⑥ 「スラブ：RC t=150」を選び、「↑」をクリックして最上位に移動します。

リストで右クリックして「最前面へ」を実行してもかまいません。



- ⑦ 「適用」をクリックします。
- ⑧ 「閉じる」をクリックします。

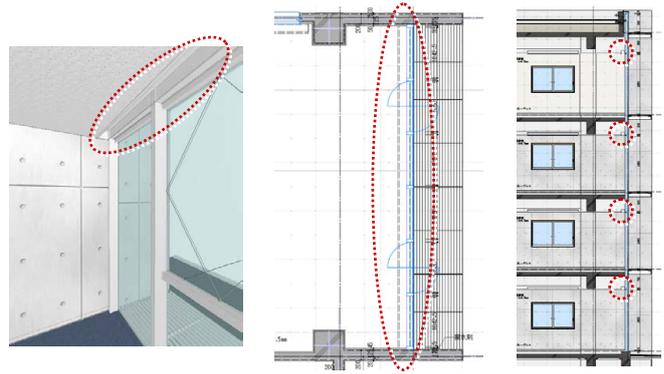


4 ブラインドボックスの入力

カーテンウォール部にブラインドボックスを入力しましょう。

【解説用データ】：L4_4.GLM

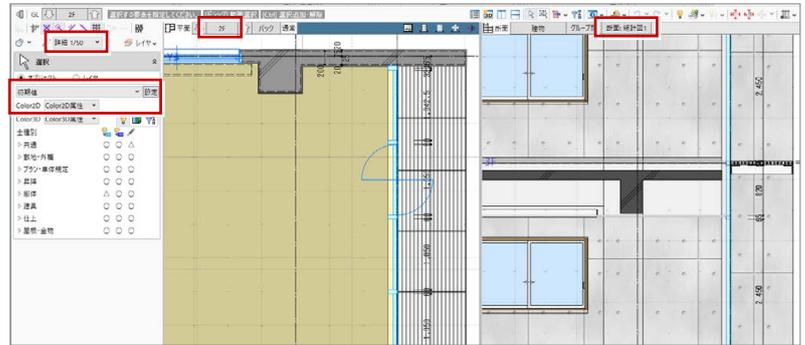
※ 1~4階の引き違い窓部分には、ブラインドボックスを入力してあります。



4-1 ブラインドボックスの入力

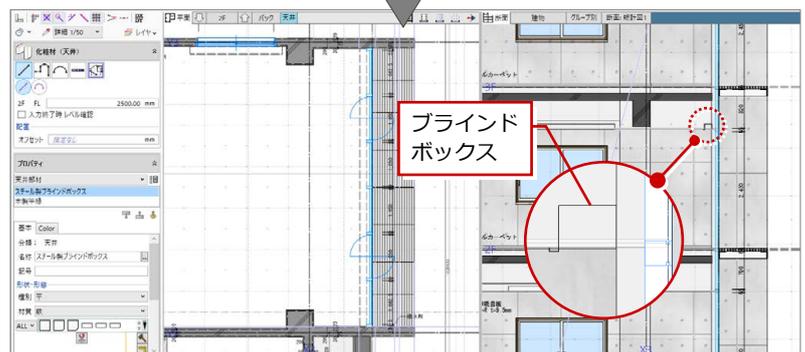
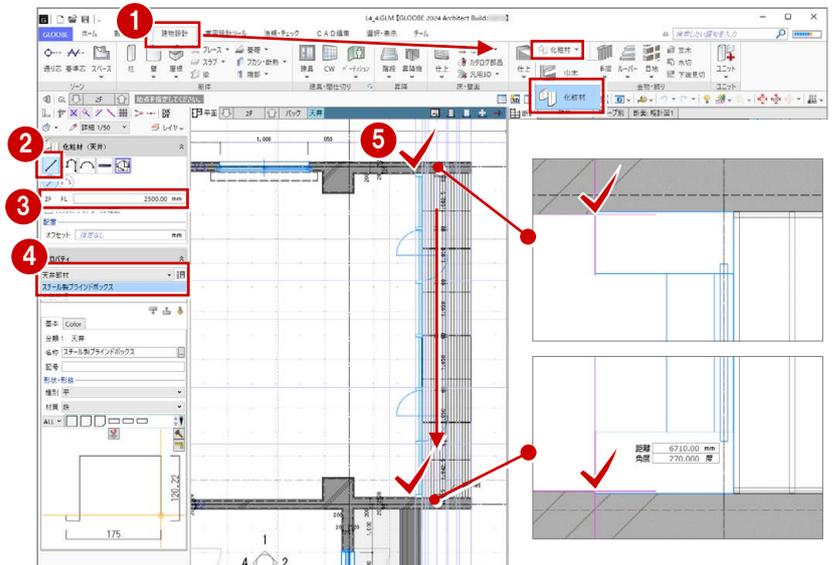
※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

- 平面ビューの表示階：「2F」
- 断面ビュー：矩計図 1
- 縮尺：詳細 1/50
- 表示テンプレート：「初期値」
- Color2D：Color2D 属性



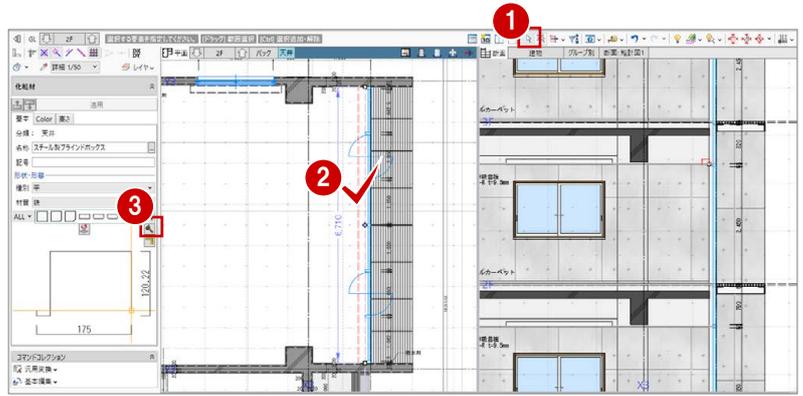
化粧材を入力する

- 1 「建物設計」タブをクリックして、「天井面」グループの「化粧材」メニューから「化粧材」を選びます。
- 2 入力モードが「線分」であることを確認します。
- 3 高さ基準を「2F FL 2500 mm」に変更します。
- 4 テンプレートから「天井部材」の「スチール製ブラインドボックス」を選びます。
- 5 ブラインドボックスの始点、終点をクリックします。ここでは、カーテンウォールの外枠と壁の交点を指定します。



化粧材の形状を変更する

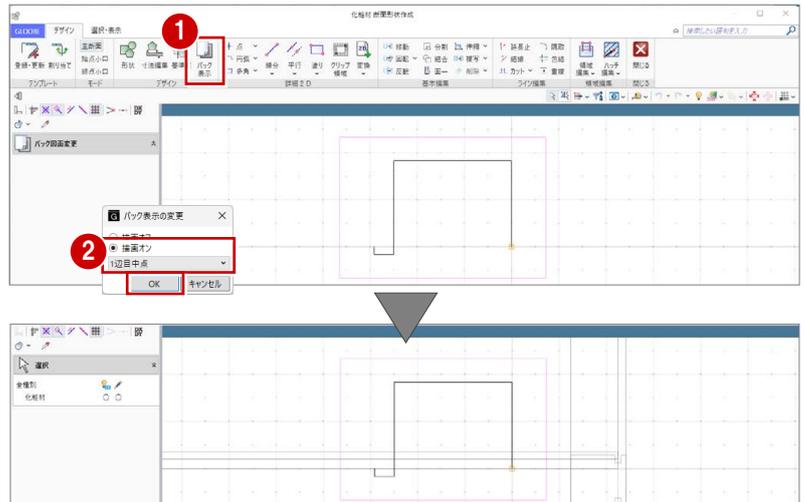
- ①② 入力したブラインドボックスを選択します。
- ③ 「形状作成」をクリックします。



参照する図面を表示する

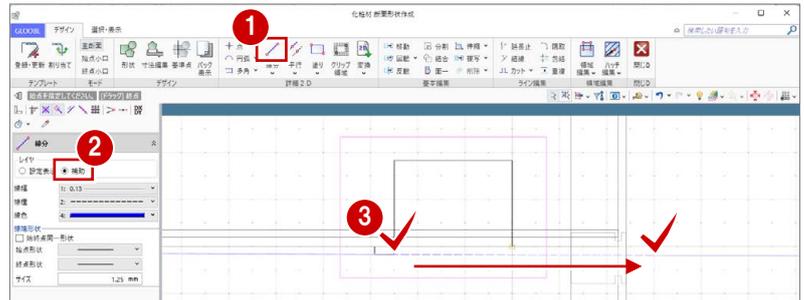
- ① 「バック表示」をクリックします。
- ② 「1 辺目中心」が選ばれていることを確認して、「OK」をクリックします。

選択したオブジェクトに複数の辺がある場合は、どの辺の断面を参照するか選択できます。また、オブジェクトにかかる断面線が存在する場合は、断面線も選択肢に表示されます。



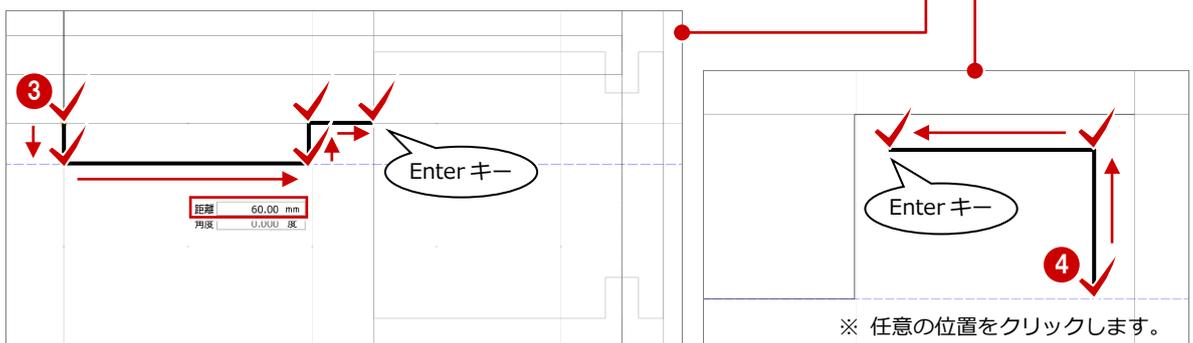
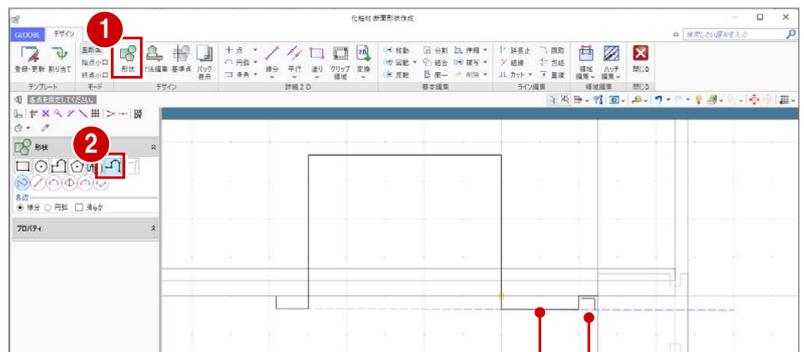
補助線を入力する

- ① 「線分」をクリックします。
- ② レイヤを「補助」に変更します。
- ③ 右図のように、補助線の始点、終点をクリックします。



断面形状を追加する

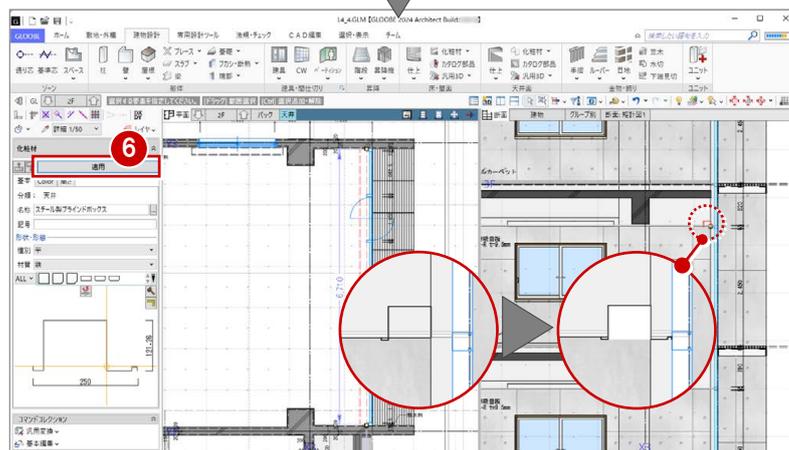
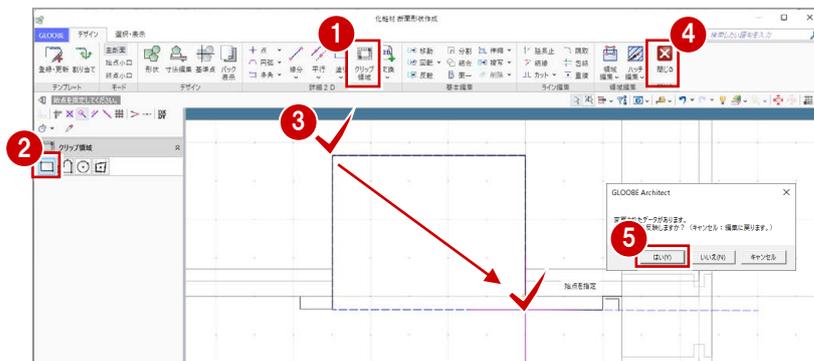
- ① 「形状」をクリックします。
- ② 入力モードを「連続線 (円弧可)」に変更します。
- ③④ 下図のように頂点を順にクリックして、最後に Enter キーを押します。



4 ブラインドボックスの入力

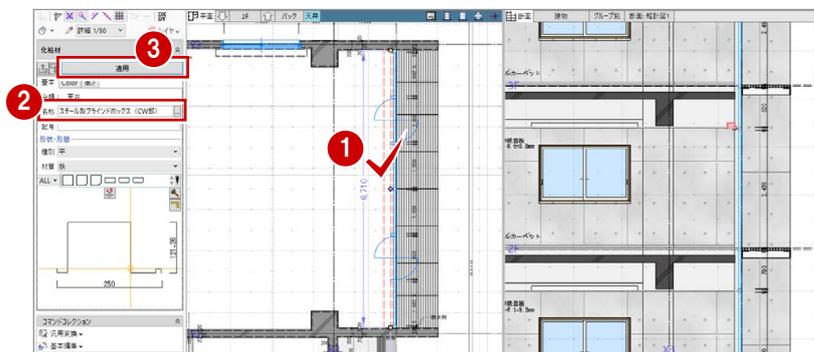
躯体・仕上線をくり貫く領域を入力する

- ① 「クリップ領域」をクリックします。
- ② 入力モードが「矩形」であることを確認します。
- ③ 右図のようにクリップ領域を入力します。
- ④ 「閉じる」をクリックします。
- ⑤ 確認画面で「はい」をクリックします。
プロパティの形状が変更されます。
- ⑥ 「適用」をクリックします。
データに反映されます。



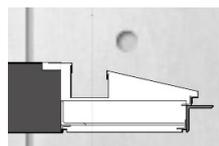
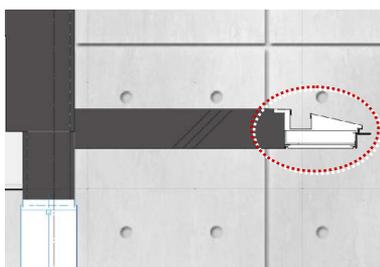
プロパティを変更する

- ①② カーテンボックスを選択して、名称を「スチール製ブラインドボックス (CW部)」に変更します。
- ③ 「適用」をクリックします。

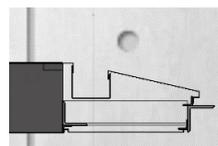


クリップ領域とは

断面形状に入り込む躯体・仕上線をクリップする領域です。クリップ領域に指定した部分は、断面ビューで躯体や仕上などのデータがくり貫かれて表示されます。なお、断面ビューにおけるクリップ領域の表示は、作図表現（他一般）の「断面形状 詳細 2D」の「作図する」がONで、かつ「詳細」表現のときに、有効になります。



【クリップ領域あり】



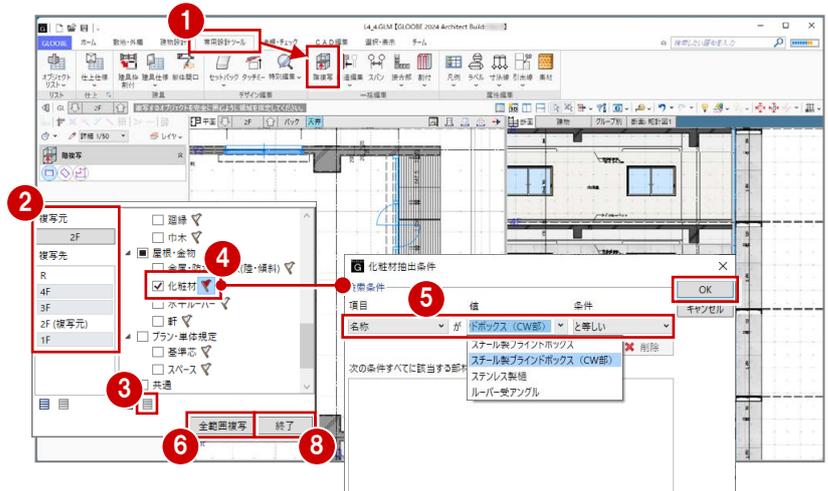
【クリップ領域なし】



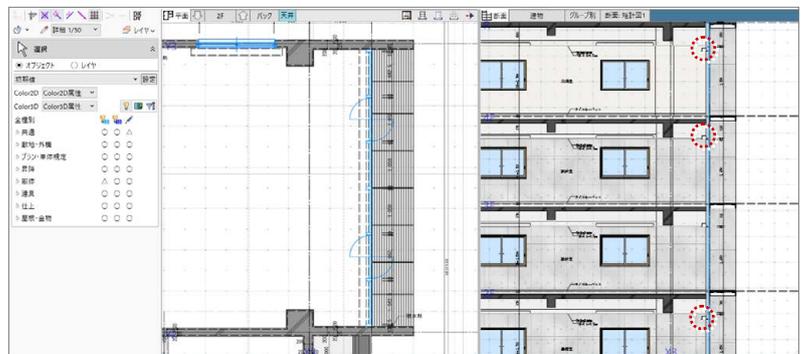
【軒の断面形状】

他の階に複写する

- 1 「専用設計ツール」タブをクリックして、「階複写」を選びます。
- 2 複写元を「2F」、複写先はCtrlキーを押しながら「4F」「3F」「1F」に設定します。
- 3 4 複写する部材を選びます。
ここでは、「全オフ」をクリックして、「化粧材」の旗マークをクリックします。
- 5 検索条件を次のように設定して、「OK」をクリックします。
項目：名称
値：スチール製ブラインドボックス (CW部)
条件：と等しい
- 6 「全範囲複写」をクリックします。
- 7 確認画面で「いいえ」をクリックします。
- 8 「終了」をクリックします。



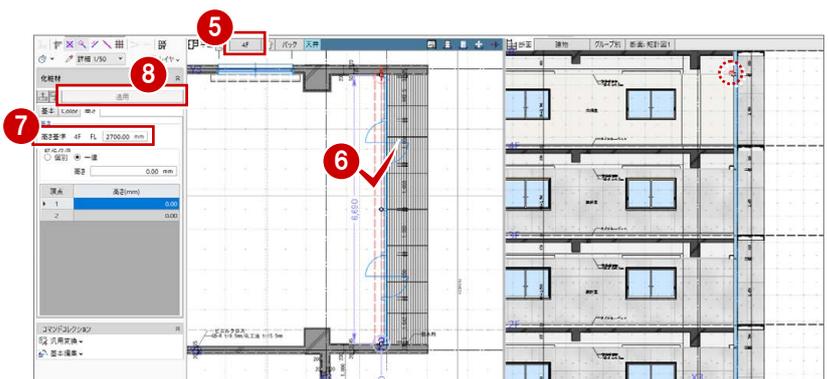
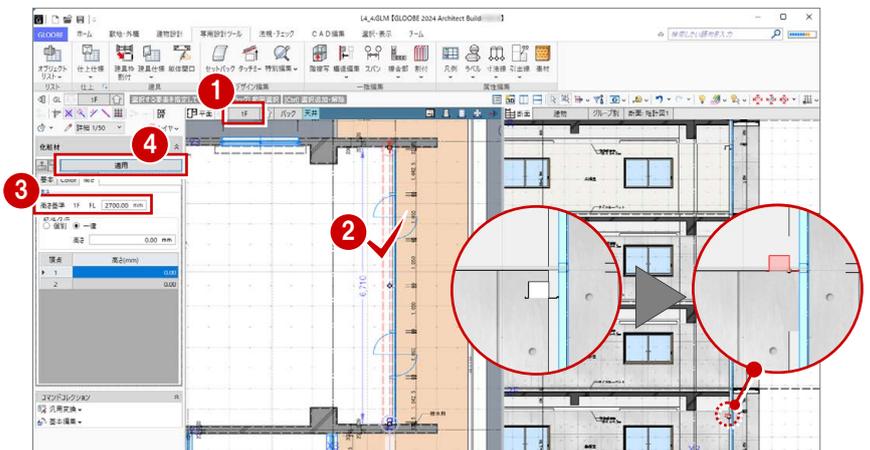
引き違い窓部分にブラインドボックスが入力されているため、確認画面が表示されます。ここでは、引き違い部分のブラインドボックスを削除しないように、「いいえ」を選びます。



高さを変更する

複写したブラインドボックスを断面ビューで確認すると、1階と4階は天井高よりも低くなっているため、取付高を変更しましょう。

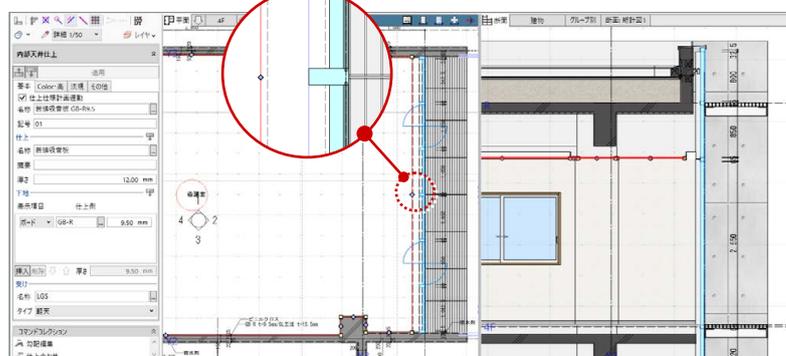
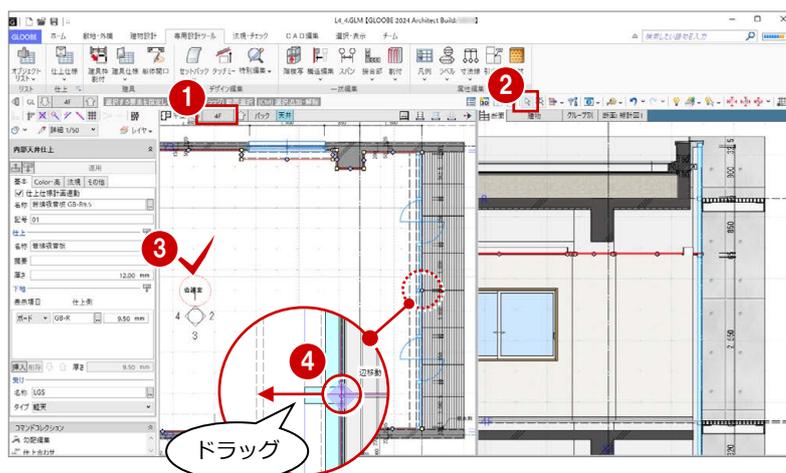
- 1 1階を表示します。
- 2 カーテンウォール部分のブラインドボックスを選択します。
- 3 「高さ」タブをクリックして、高さ基準を「1F FL 2700 mm」に変更します。
- 4 「適用」をクリックします。
- 5～8 同様にして、4階のブラインドボックスの高さ基準を「4F FL 2700 mm」に変更します。



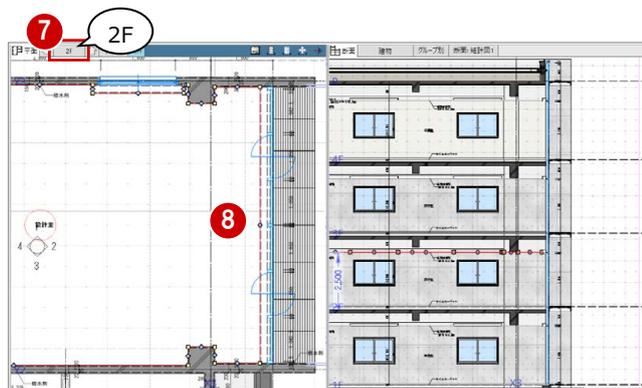
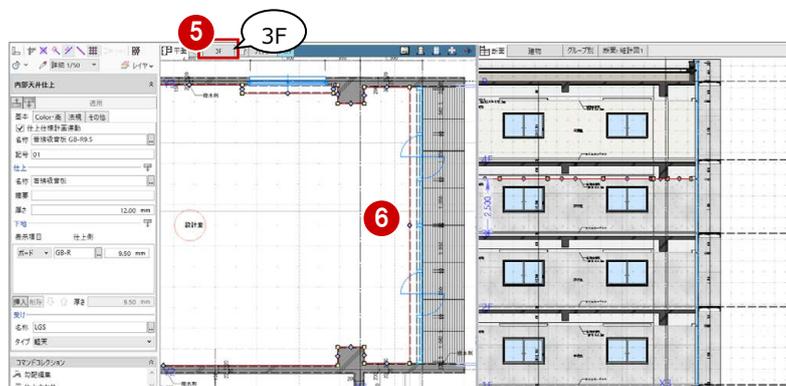
4-2 天井領域の編集

ブラインドボックスに合わせて、天井仕上の領域を編集しましょう。

- ① 4階を表示します。
- ②③ ブラインドボックス部分の天井仕上を選択します。
- ④ 「辺移動」のハンドルをドラッグして、ブラインドボックスの位置まで移動します。



- ⑤～⑩ 同様にして、3階～1階の天井仕上も編集します。



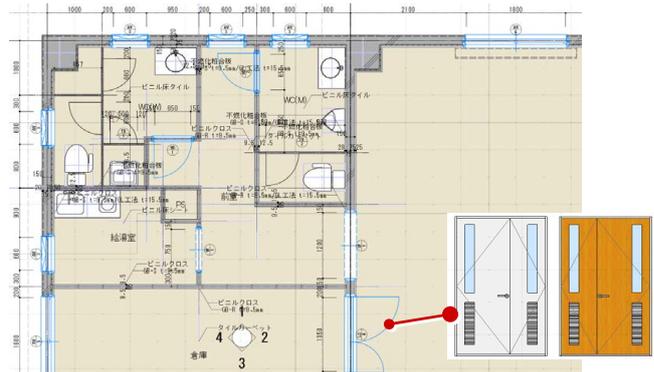
5 建具表の作成

入力済みの建具を集計し、建具符号を割り当てて、建具表の登録を行います。

また、一部の建具のデザインを変更しましょう。

【解説用データ】：L4_5.GLM

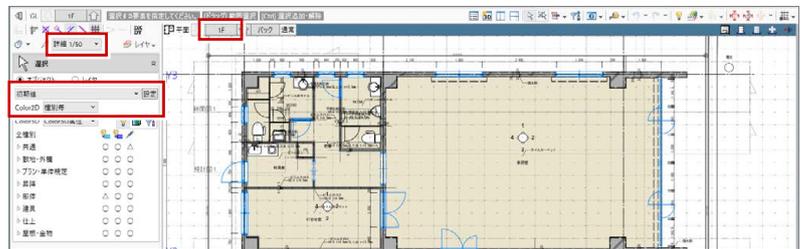
※ スチールドア以外の建具には、詳細プロパティを入力してあります。



5-1 符号の割り当てと建具表の登録

※ ここでの操作がしやすいように、あらかじめ表示やビューの状態を次のように変更しておきましょう。

- 平面ビューの表示階：「1F」
- 縮尺：詳細 1/50
- 表示テンプレート：「初期値」
- Color2D：種別毎



パーティションをグループ化する

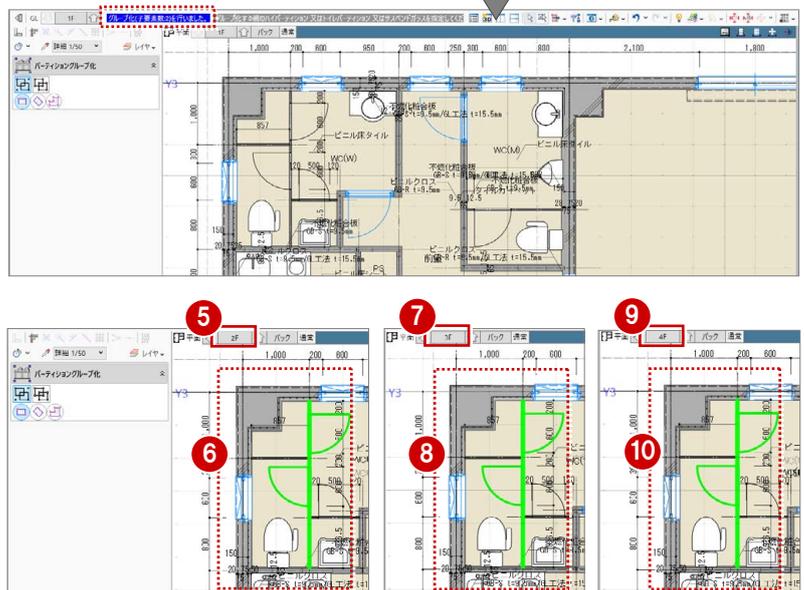
WC (W) のトイレパーティションと隔て板をユニットとしてグループ化しましょう。

- 1 「専用設計ツール」タブをクリックして、「建具仕様」メニューから「パーティショングループ化」を選びます。
- 2 入力モードが「グループ化」であることを確認します。
- 3 親となるパーティションをクリックします。
- 4 グループ化する他のパーティションが含まれるように範囲を指定します。



パーティションやサスペンドガラスは、通常、複数の接続されたユニットを1つのものとして記号・番号を付けて建具表に記載するため、最初にグループ化しておきます。
なお、親に指定したものが建具表に表示されます。

- 5～10 同様にして、2階～4階のトイレパーティションもグループ化します。



建具符号を割り付ける

建具のプロパティや設定を確認する

① 「建具仕様」メニューから「建具仕様」を選びます。

② 建具のプロパティが一覧表示されるので、プロパティの設定漏れを確認します。

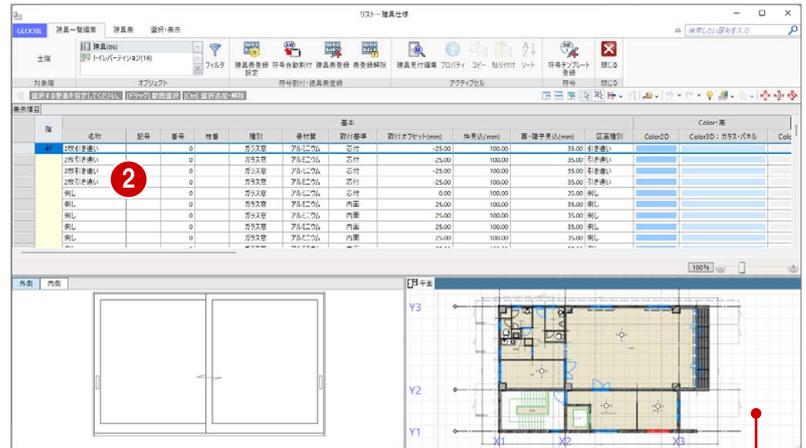
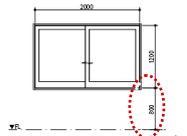
建具の種類・骨材質が未設定の場合は、「符号自動割付」を実行したときに建具符号が割り当たりません。プロパティを確認しておきましょう。

③ 「建具表登録設定」をクリックします。

④ 「符号自動割付に取付高を考慮」をONにして、「OK」をクリックします。

「符号自動割付に取付高を考慮」をONにすると、次のようになります。

- ・「符号自動割付」の条件に「取付高 (FL±)」が追加され、取付高が異なった場合は別番号にできます。
- ・「建具表登録」で取付基準が下端に統一され、取付高が編集不可になります。
- ・図面・GLOBEシートで建具表を作成したときに、姿図に建具取付高が作図されます。



セルをクリックすると、対象の建具が赤く表示されます。このとき、「GLOBE のオプション (リスト)」の「選択フィット」がONになっていると、対象の部材がビューの中心に大きく表示されます。

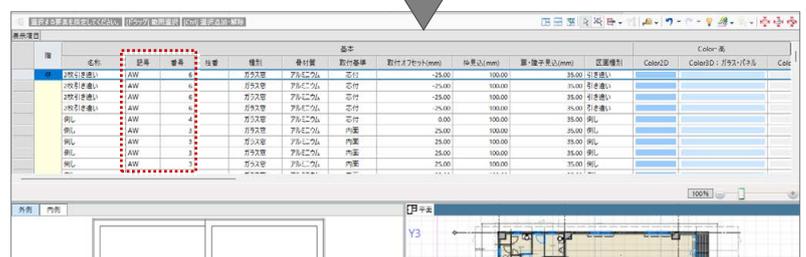


建具の符号を割り付ける

① 「符号自動割付」をクリックします。

② 割り付ける記号と、同一の建具とみなす判別条件を設定して、「OK」をクリックします。

③ 確認画面で「OK」をクリックします。記号・番号が割り付けられます。

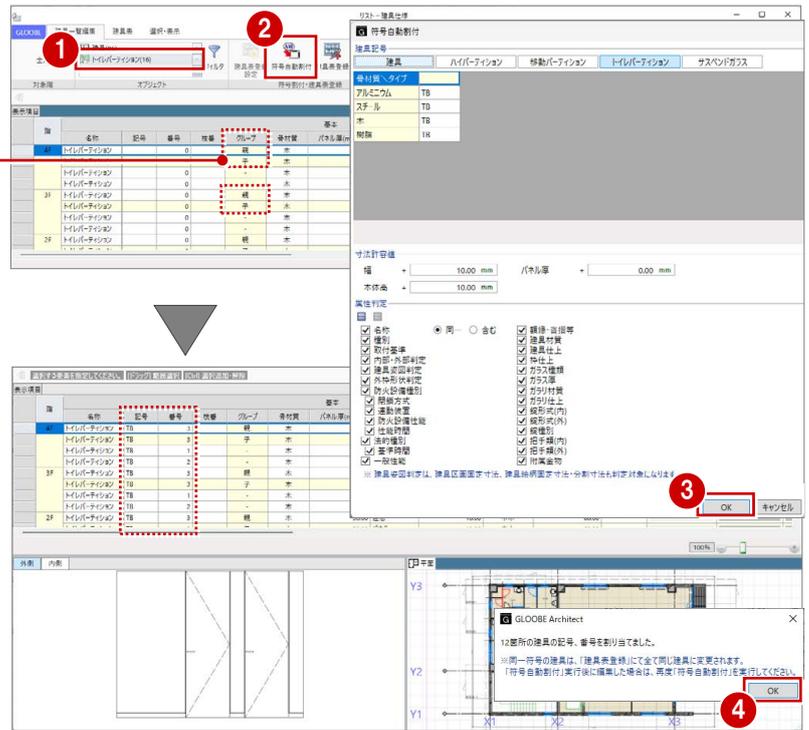


パーティションの符号を割り付ける

- 1 オブジェクトを「トイレパーティション」に変更します。

一覧で、パーティションがグループ化されていることを確認できます。

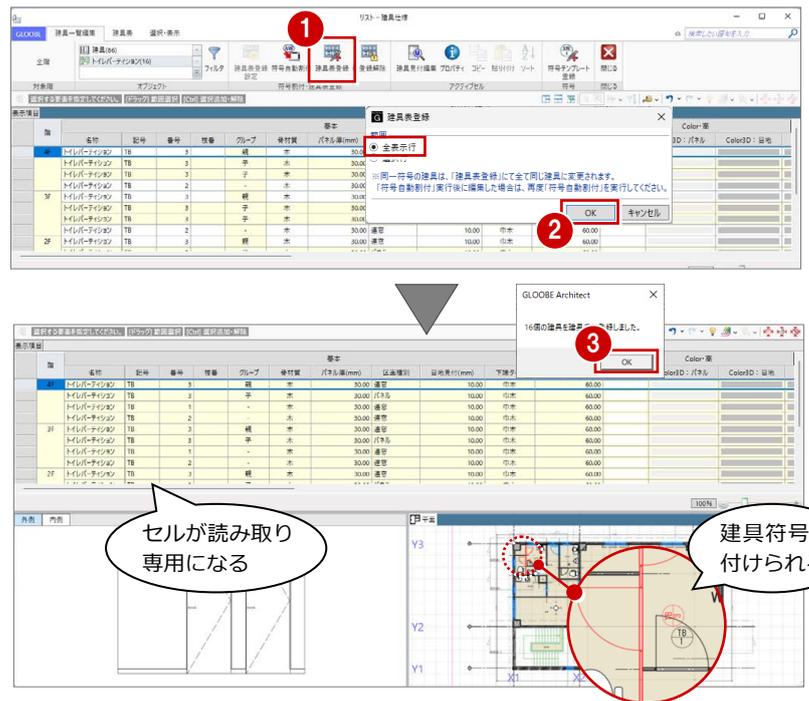
- 2~4 建具と同様にして、パーティションの記号・番号を割り付けます。



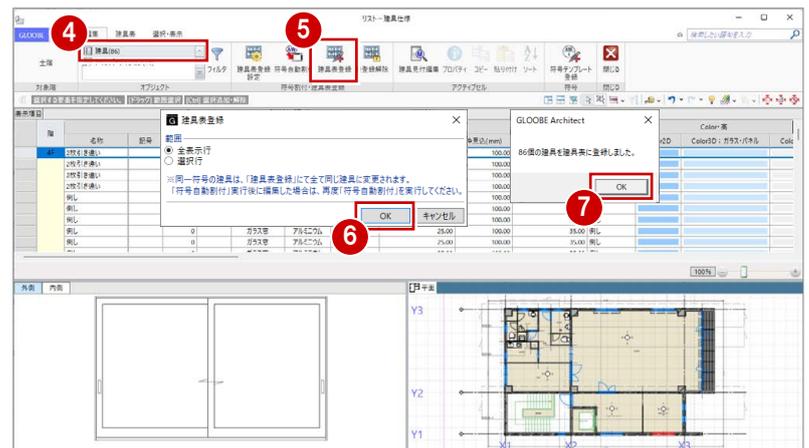
建具表に登録する

- 1 「建具表登録」をクリックします。
- 2 範囲が「全表示行」であることを確認して、「OK」をクリックします。
- 3 確認画面で「OK」をクリックします。建具符号が付けられ、プロパティの変更ができなくなります。

「建具表登録」を行わないと、図面・GLOOBEシートで建具表の作成はできません。



- 4~7 オブジェクトを「建具」に変更して、建具表に登録します。



5-2 詳細項目の編集

詳細プロパティを入力する

- 「建具表」タブをクリックします。
同一符号の建具がまとめて表示されます。

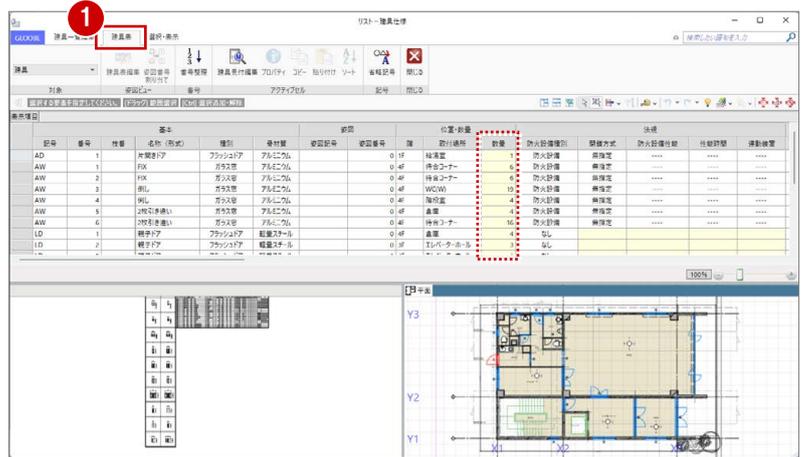
数量が複数箇所ある場合は、「階」や「取付場所」のセルをクリックすることで、どこから集計しているかを確認できます。



セルを右にスクロールして建具の詳細プロパティを入力しますが、作業しやすいように、列を固定しておきましょう。

- 固定しておきたい列（ここでは「骨材質」）で右クリックして、「列の固定」を選びます。
- 「LD 1 親子ドア」の詳細プロパティを次のように入力します。

- 建具材質：スチール
- 建具仕上：化粧塩ビフィルム
- ガラス種類：型板ガラス
- ガラス厚：3
- 付属金物：レバーハンドル・シリンダー錠（サムターン付き）
- 付属金物一式

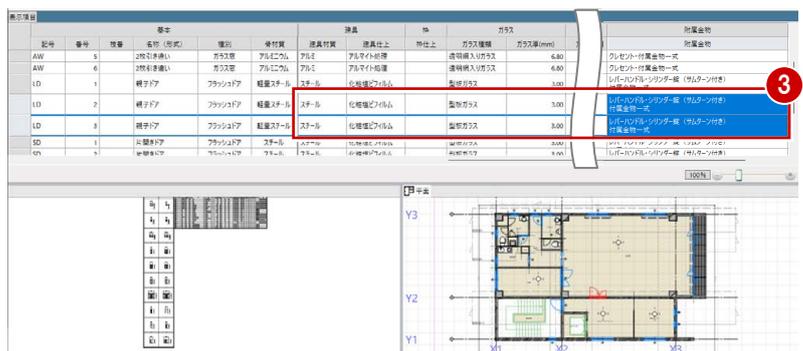
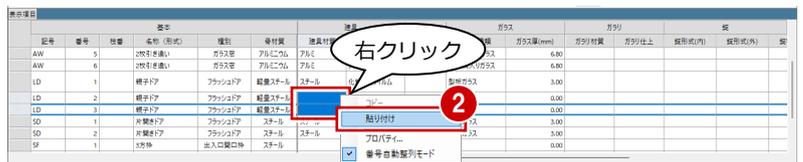


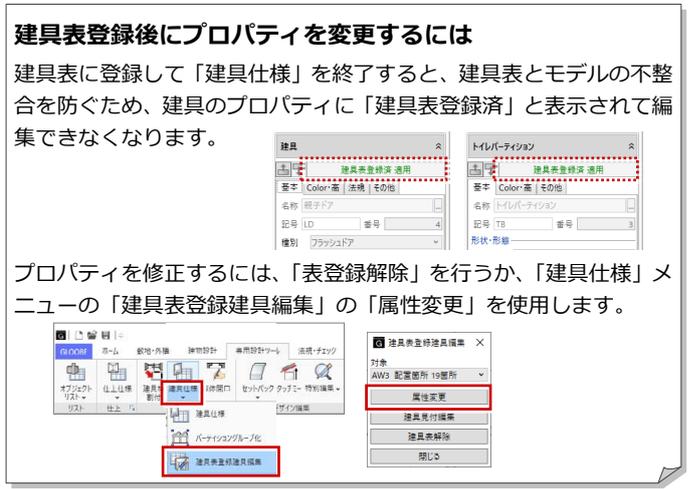
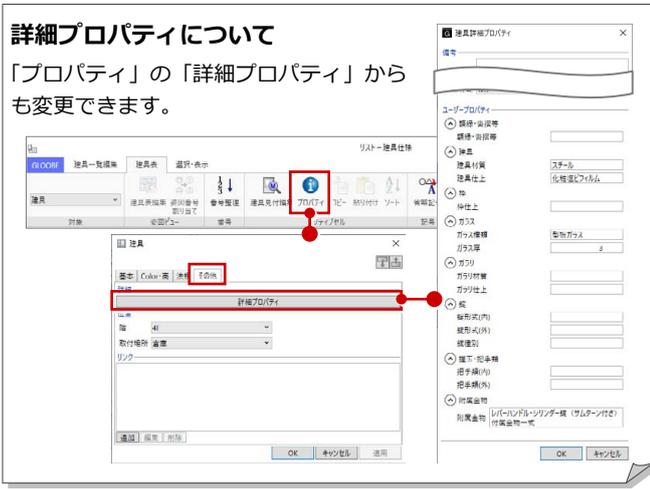
他の符号に複写する

「LD 1」の詳細プロパティを「LD 2」「LD 3」にコピーしましょう。

- 「LD 1」の建具材質のセルを選択し、右クリックして「コピー」を選びます。
- Ctrl キーを押しながら「LD 2」「LD 3」の建具材質のセルを選択し、右クリックして「貼り付け」を選びます。
- 同様にして、「建具仕上」～「付属金物」の内容を複写します。

「建具表」タブからの変更は、同一符号の建具すべてにその変更が反映されます。





5-3 建具デザインの変更

3Dビューに変更して、4F倉庫の「LD 1 親子ドア」を確認すると、倉庫側も会議室側も同じ仕上になっています。
ここでは、親子ドアの倉庫側の仕上を SOP に変更してみましょう。



詳細プロパティを変更する

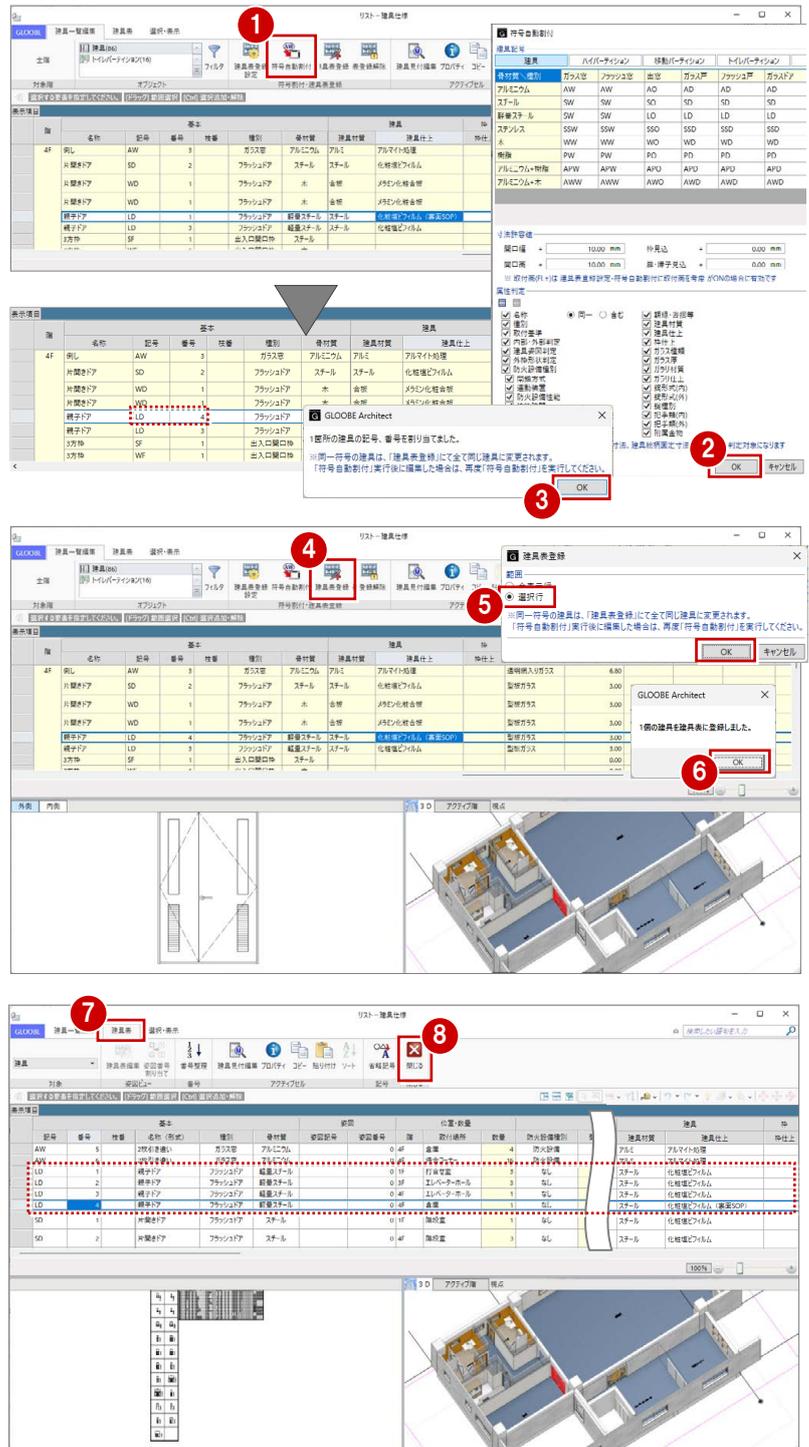
- ① 「建具一覧編集」タブをクリックします。
- ② 4F倉庫の「LD 1 親子ドア」を選択します。
- ③ 「表登録解除」をクリックします。
- ④ 範囲を「選択行」に変更して、「OK」をクリックします。
- ⑤ 確認画面で「OK」をクリックします。
選択した建具が編集できる状態になります。
- ⑥ セルを右にスクロールして、詳細プロパティを次のように変更します。
建具仕上：化粧塩ビフィルム（裏面 SOP）



※ ここでは、「骨材質」で列を固定しています。

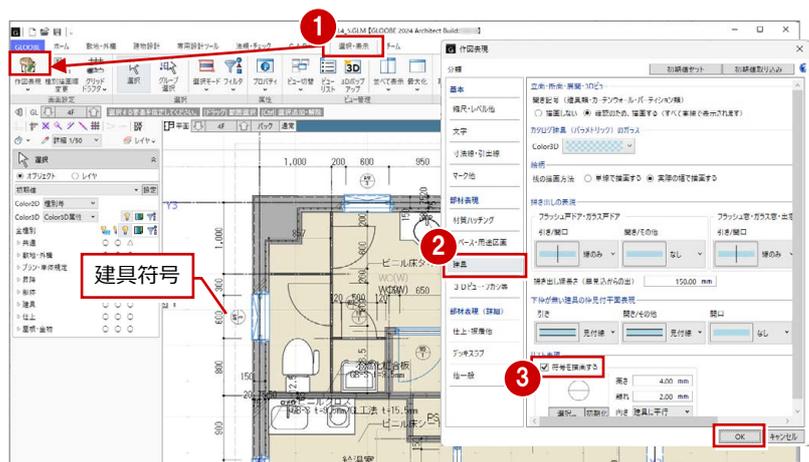
建具符号を再設定する

- 「符号自動割付」をクリックします。
- 「符号自動割付」ダイアログで「OK」をクリックします。
- 確認画面で「OK」をクリックします。
4F 倉庫の親子ドアに「LD 4」の符号が割り付けられます。
- 「建具表登録」をクリックします。
- 範囲を「選択行」に変更して、「OK」をクリックします。
- 確認画面で「OK」をクリックします。
- 「建具表」タブをクリックします。
「LD 1」の数量が減り、4F 倉庫の「LD 4」が集計されたことを確認できます。
- 「閉じる」をクリックします。



建具符号を表示する

- 「選択・表示」タブをクリックして、「作図表現」を選びます。
- 分類で「建具」を選びます。
- 「符号を描画する」を ON にして、「OK」をクリックします。

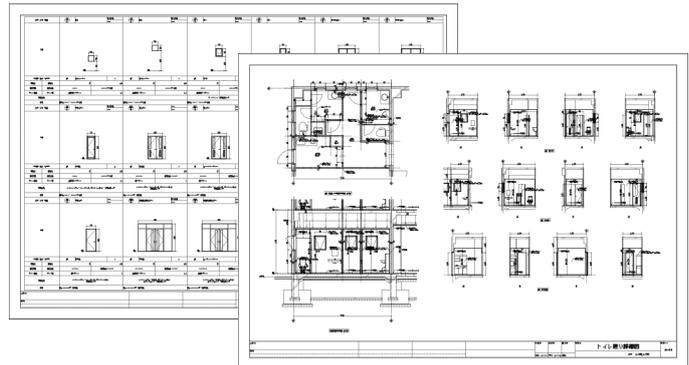


6 図面の作成

ここでは、仕上表や平面詳細図など、現在作成中の図面の更新を行います。また、トイレ廻り詳細図や建具表を新たにレイアウトしてみましょう。

【解説用データ】：L4_6.GLM

※ 仕上表や平面詳細図などの図面はレイアウト済みです。また、2~4階のトイレ廻りの詳細図引出線は削除してあります。



6-1 仕上表の調整

内部仕上表の図面を配置すると、全階の仕上が表示されますが、ここでは、2階と3階は同じ仕上表となるため、共通の仕上表として図面を編集するための設定を行います。

作表しない仕上を設定する

- 1 3階を表示します。
- 2 「専用設計ツール」タブをクリックして、「仕上仕様」を選びます。
「内部仕上表」タブが開き、実際の仕上データが一覧で表示されます。
- 3 3Fの「作表」のチェックをすべてOFFに変更します。
- 4 「閉じる」をクリックします。



階	作表	室名(英字)	室名(漢字)	室番号	床高(mm)	天井高(mm)	内装制限	仕上名称	仕上厚(mm)	平床厚(mm)	巻上名称	巻上	高さ
3F	<input type="checkbox"/>	CMF	WC/M		FL±0.00	2400.00	なし	ビニルタイル	2.00		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	CMF	WC/M		FL±0.00	2400.00	なし	ビニルタイル	2.00		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	パネクセル	パネクセル		FL±0.00	2800.00	なし	タイルカーペット	6.50		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	漆塗	結露室		FL±0.00	2400.00	なし	ビニルシート	2.00		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	計装	計装室		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50		OAフロア	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	室	計装室		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	巻上室	巻上室		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60
	<input type="checkbox"/>	巻上室	巻上室		FL±0.00	2500.00	なし	タイルカーペット	6.50		巻上ルパンダ下地	スパンホキH60	1.2+60

「仕上仕様」を起動したときに、「内部仕上計画」タブが開いた場合は、「仕上表」をクリックすると「内部仕上表」タブが開きます。



⇒ 「仕上仕様」を起動したときに最初に表示するタブの設定については、P.5 参照

仕上表に表示しない行はOFFにします。

6-2 天井伏図の設定

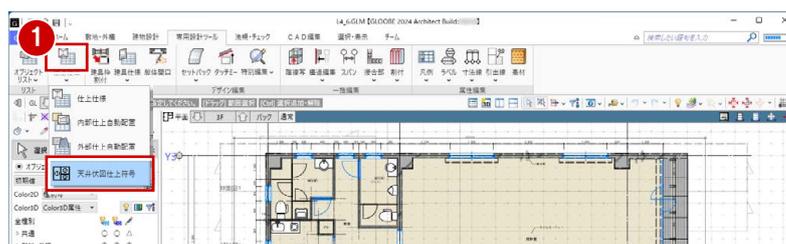
天井伏図に仕上符号を表示して、天井伏図仕上表を配置するための設定を行います。



天井伏図用の符号を割り当てる

- ① 「仕上仕様」メニューから「天井伏図仕上符号」を選びます。

全階に配置されている天井仕上データを集計してリスト表示されます。



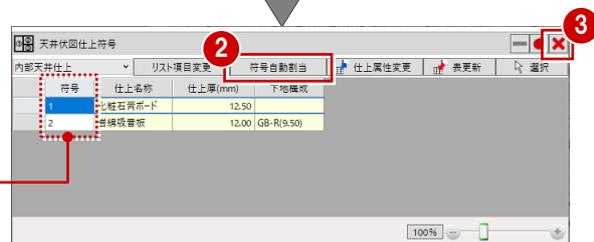
内部・外部を切り替えます。

- ② 「符号自動割当」をクリックします。
リストの上から順に数字が割り付けられ、平面ビューにも符号が表示されます。



- ③ 「閉じる」をクリックします。

任意の数字を入力してもかまいません。

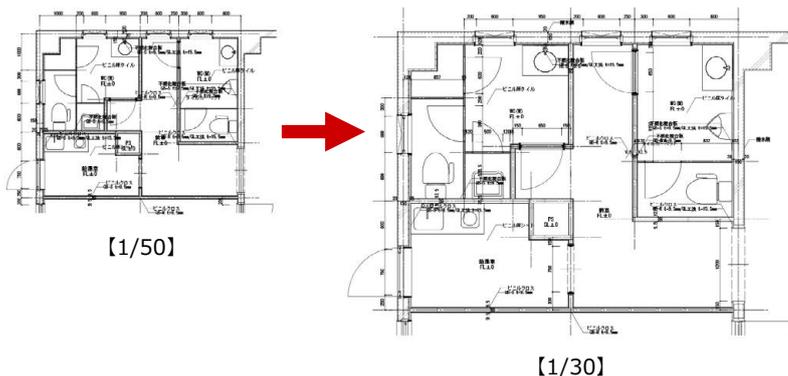


- ④ 優先表示を「通常」に戻しておきましょう。



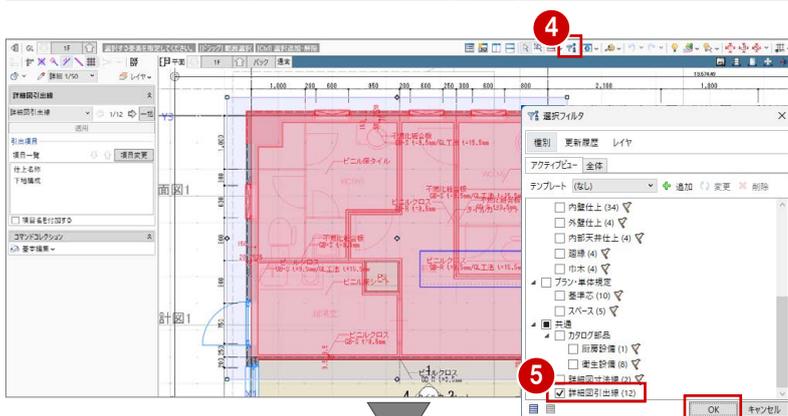
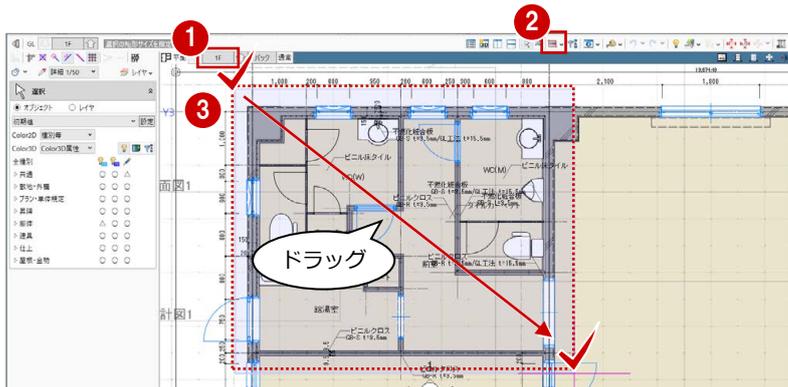
6-3 トイレ廻り詳細図の準備

1/50の平面詳細図を配置すると、今回のトイレ廻りは部屋が小さく、引出線のレイアウトが難しいため、1/30のトイレ廻り詳細図を別途作図します。ここでは、そのための設定を行います。



トイレ廻りの引出線を削除する

- ① 1階を表示します。
- ②③ 選択モードが「ボックスイン」の状態、トイレ廻りの部材を範囲選択します。
- ④ 「フィルタ」をクリックします。
- ⑤ 「詳細図引出線」のみにチェックを付けて、「OK」をクリックします。
範囲内の詳細図引出線が選択された状態になります。

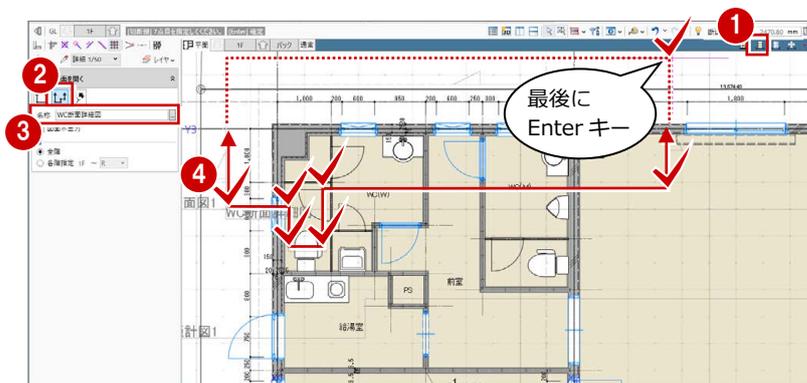


- ⑥ Delete キーを押します。



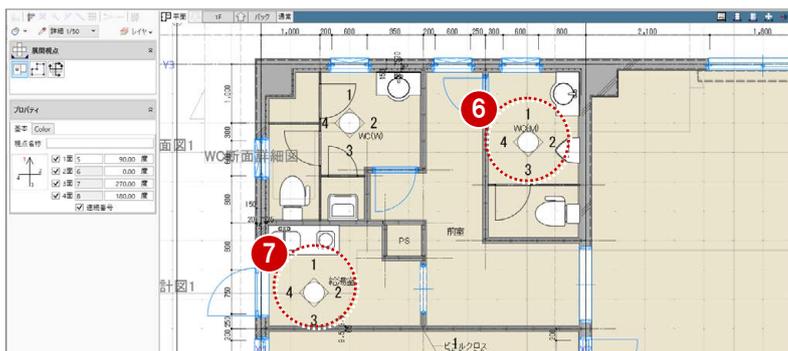
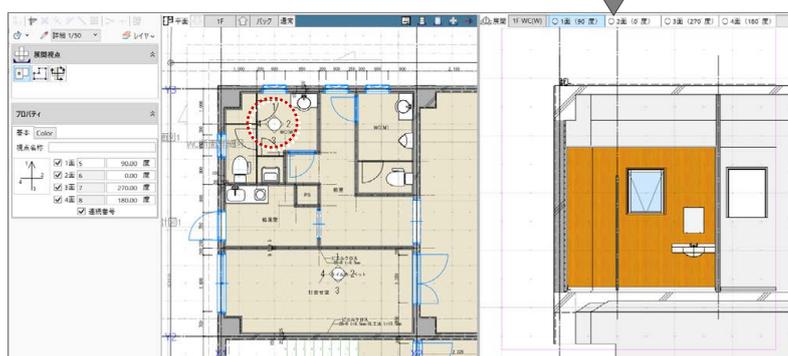
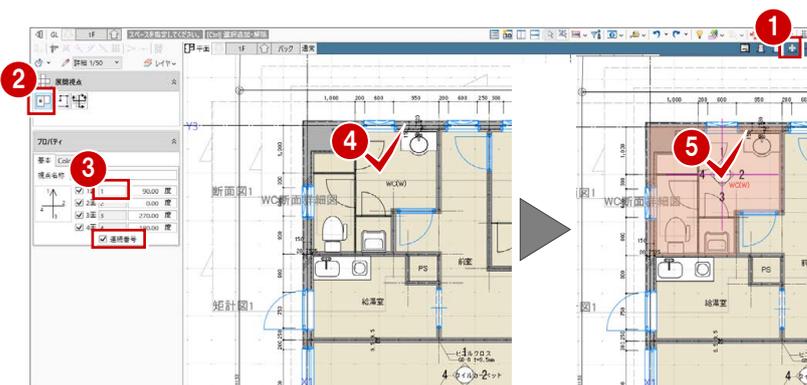
断面線を入力する

- ① 平面ビューツールバーの「断面を開く」をクリックします。
- ② 入力モードを「断面線 (クランク)」に変更します。
- ③ 名称を「WC 断面詳細図」に変更します。
- ④ 切断位置を順にクリックして、最後に Enter キーを押します。



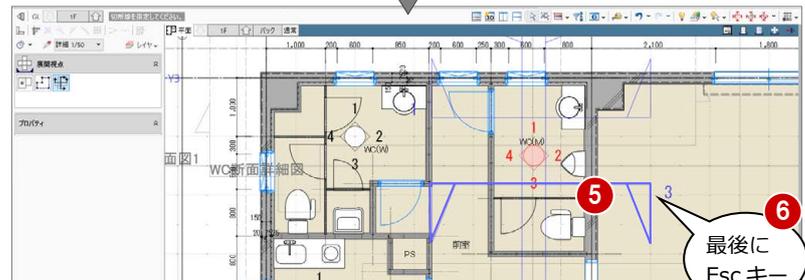
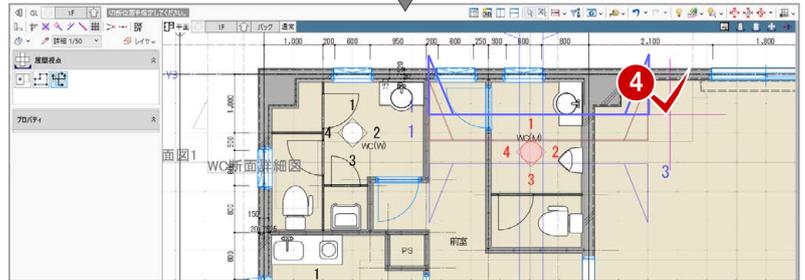
展開視点を入力する

- ① 平面ビューツールバーの「展開視点」をクリックします。
 - ② 入力モードが「スペース参照」であることを確認します。
 - ③ 「連続番号」が ON であることを確認して、1面の番号を「1」に変更します。
 - ④ 展開視点を入力するスペース（ここでは「WC (W)」) をクリックします。
 - ⑤ 展開視点の配置位置をクリックします。
- ⑥⑦ 同様にして、「WC (M)」「給湯室」にも展開視点を入力します。

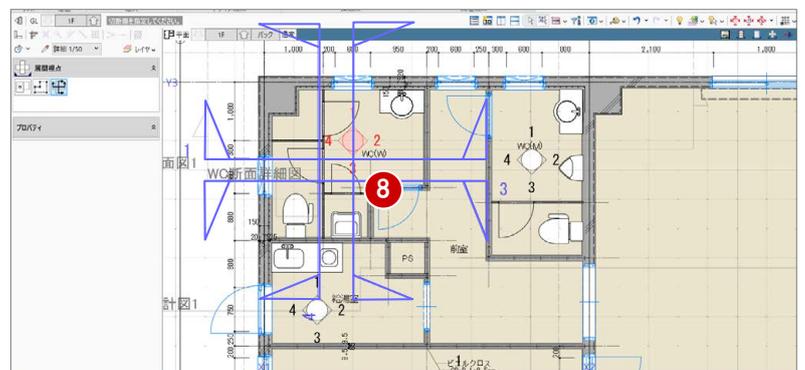
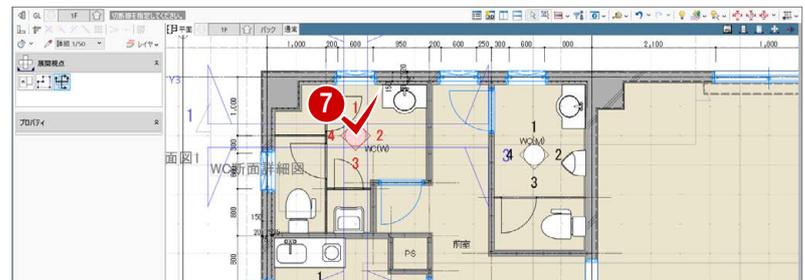


展開視点の切断位置を変更する

- ❶ 入力モードを「切断位置変更」に変更します。
- ❷ 展開視点（ここでは「WC (M)」の視点）をクリックします。
現在の切断位置が表示されます。
- ❸ 変更する切断線（ここでは「1」）をクリックします。
- ❹ 切断線の移動先をクリックします。
- ❺ 同様にして、「3」の切断位置も変更します。
- ❻ 最後に Esc キーを押します。



- ❼ 「WC (W)」の展開視点をクリックして、右図のように切断位置（1～4）を変更します。



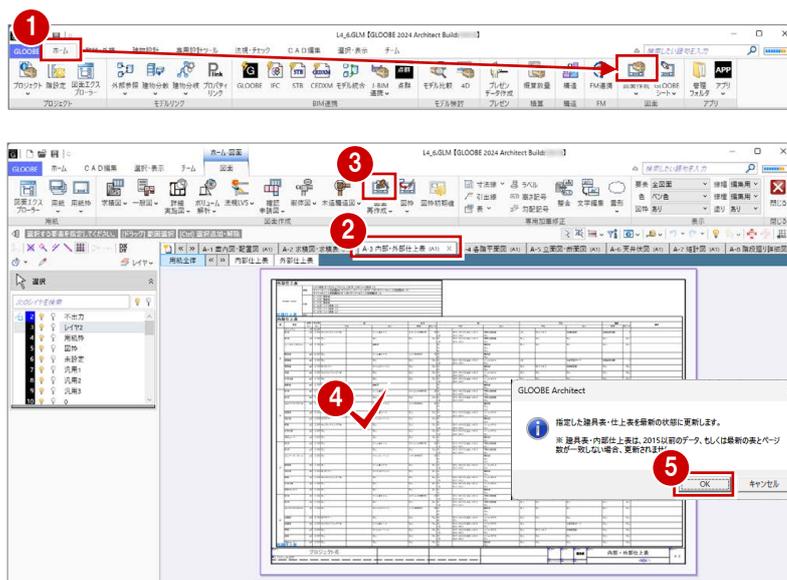
※ 「給湯室」の展開視点の切断位置は、そのままかまいません。

6-4 図面の作成

仕上表を更新する

内部仕上表を再作成する

- 「ホーム」タブをクリックして、「図面作成」を選びます。
- 「A-3 内部・外部仕上表」の用紙を表示します。
- 「図面再作成」をクリックします。
- 内部仕上表をクリックします。
- 確認画面で「OK」をクリックします。
3階の仕上表が表示されなくなります。



階の名称を変更する

2階と3階は同じ仕上表となるため、表内の「2F」の文字列を「2・3F」に変更しましょう。

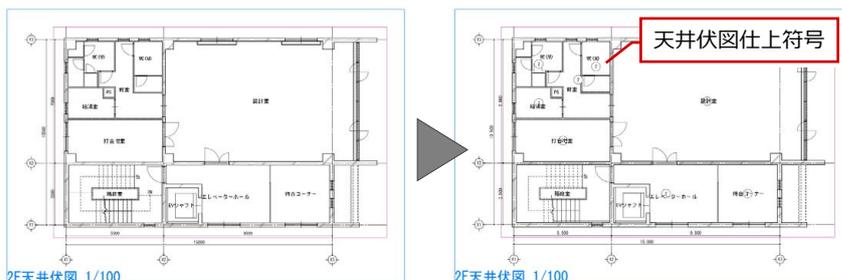
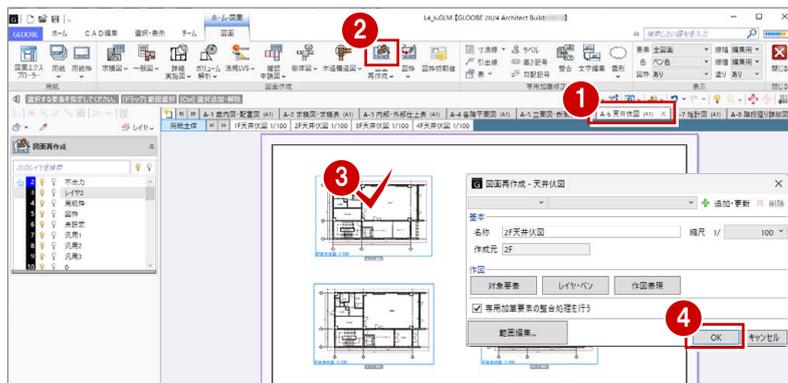
- 「内部仕上表」をアクティブにします。
- 表内の「2F」の文字列を選択します。

- テキストを「2・3F」に変更します。
- 「適用」をクリックします。

天井伏図を更新する

天井伏図を再作成する

- ① 「A-6 天井伏図」の用紙を表示します。
- ② 「図面再作成」をクリックします。
- ③ 再作成する天井伏図をクリックします。
- ④ 「図面再作成」ダイアログでそのまま「OK」をクリックします。
天井伏図仕上符号が表示されます。



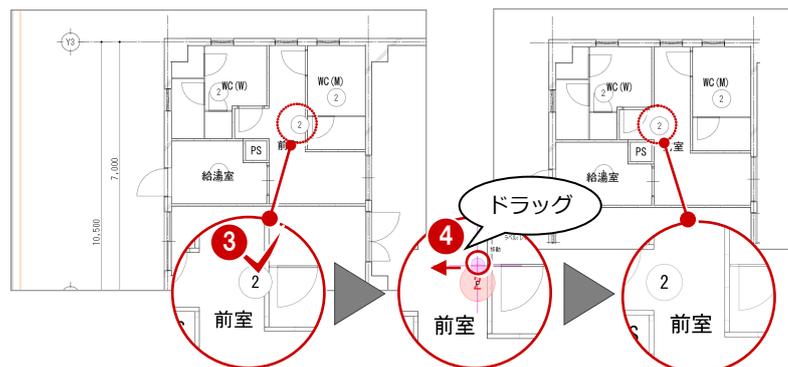
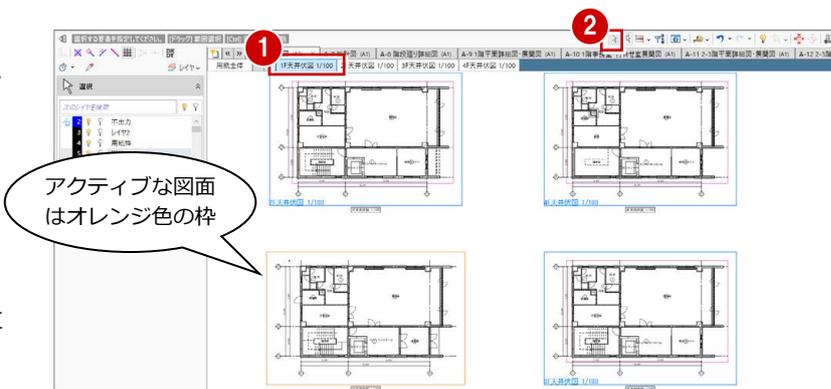
- ⑤～⑦ 同様にして、他の天井伏図も再作成します。



天井伏図仕上符号を移動する

スペースの名称と天井伏図仕上符号が重なっているときは、任意の位置に移動しておきましょう。

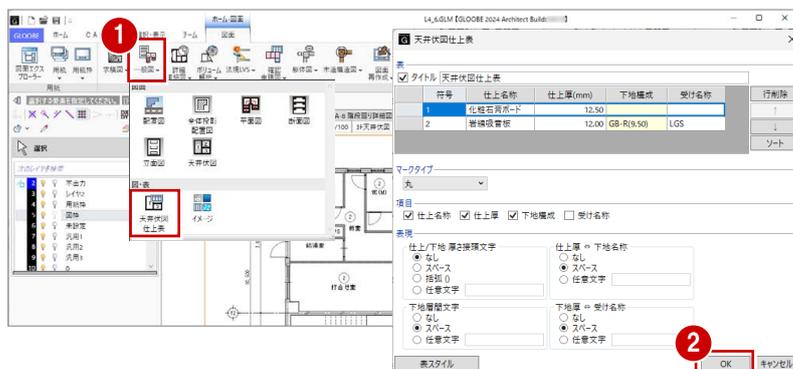
- ① 編集する図面（ここでは「1F 天井伏図」）をアクティブにします。
- ②③ 天井伏図仕上符号を選択します。
- ④ 「移動」のハンドルをドラッグして任意の位置へ移動します。
- ⑤ 同様にして、他の天井伏図仕上符号も移動します。
編集する図面を切り替えて、すべての天井伏図を確認しましょう。



天井伏図仕上表を配置する

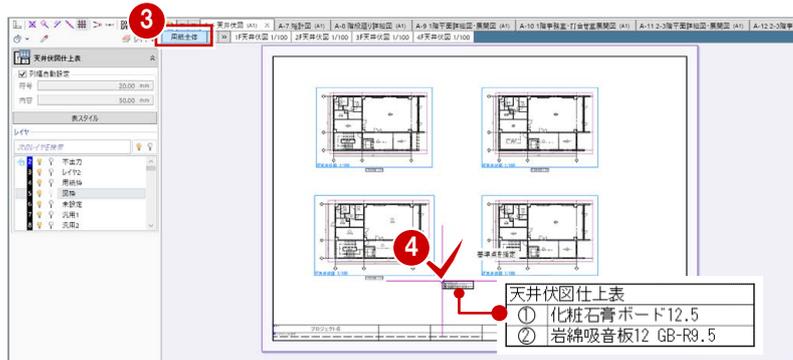
① 「一般図」メニューから「天井伏図仕上表」を選びます。

② ダイアログの内容を確認して、「OK」をクリックします。



③ 「用紙全体」をアクティブにします。

④ 表の配置位置をクリックします。



平面詳細図を更新する

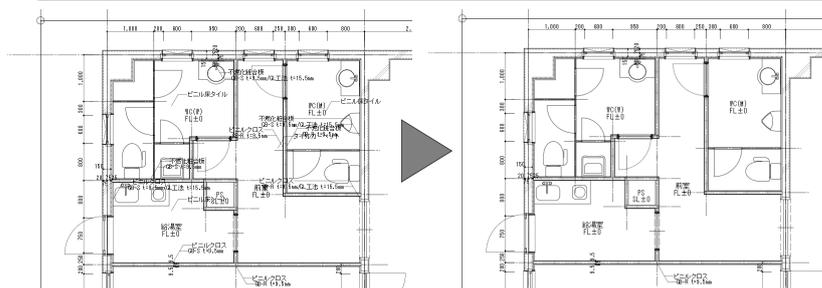
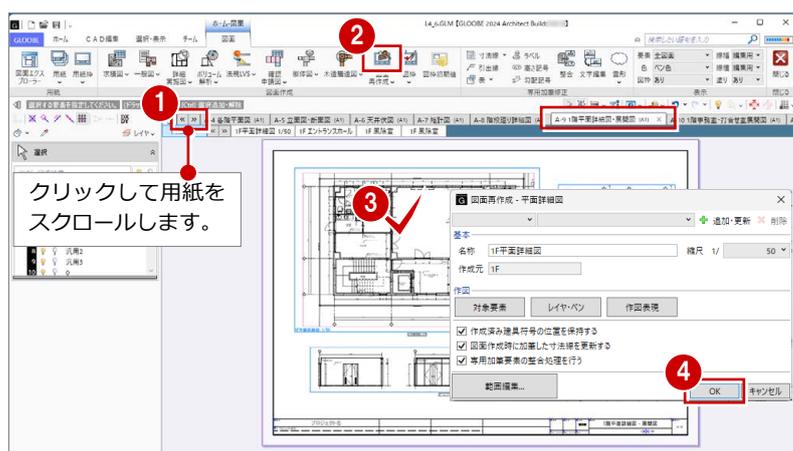
① 「見出しスクロール」をクリックして、「A-9 1階平面詳細図・展開図」の用紙を表示します。

② 「図面再作成」をクリックします。

③ 平面詳細図をクリックします。

④ 「図面再作成」ダイアログでそのまま「OK」をクリックします。

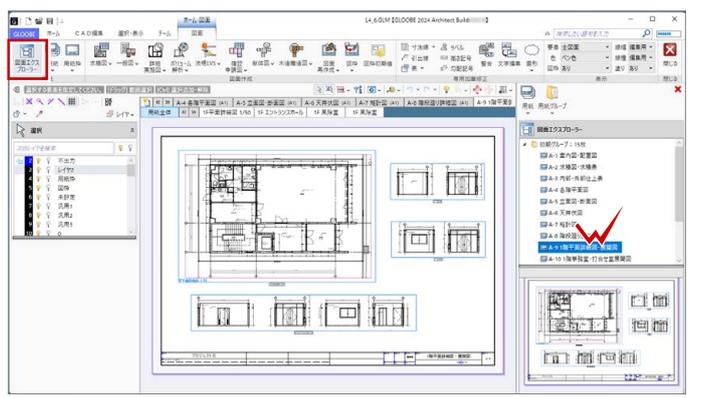
トイレ廻りの引出線が削除されます。



図面エクスプローラから用紙を表示するには

用紙が多いとき、「図面エクスプローラ」を使用すると、目的の用紙を表示しやすくなります。

図面エクスプローラでは、用紙をグループに分けて管理したり、作業しないグループを閉じて用紙タブに表示させないような設定ができます。

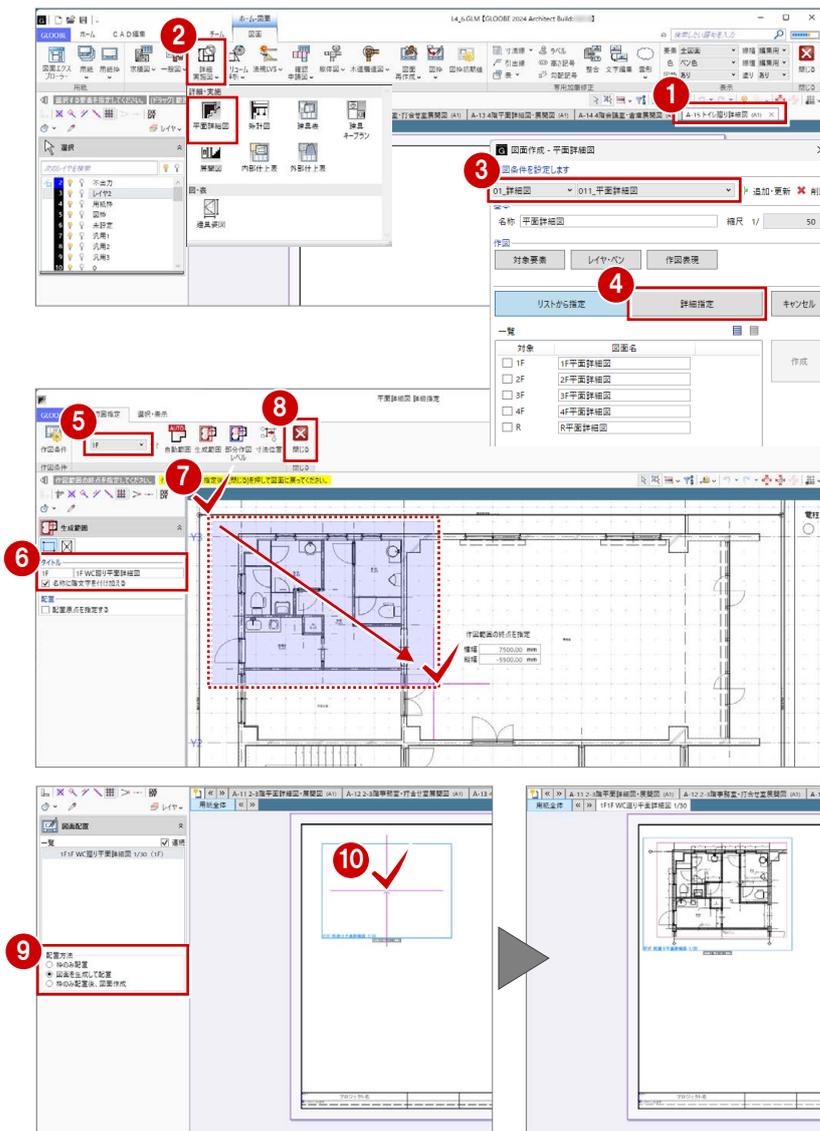


トイレ廻り詳細図を作成する

平面詳細図を配置する

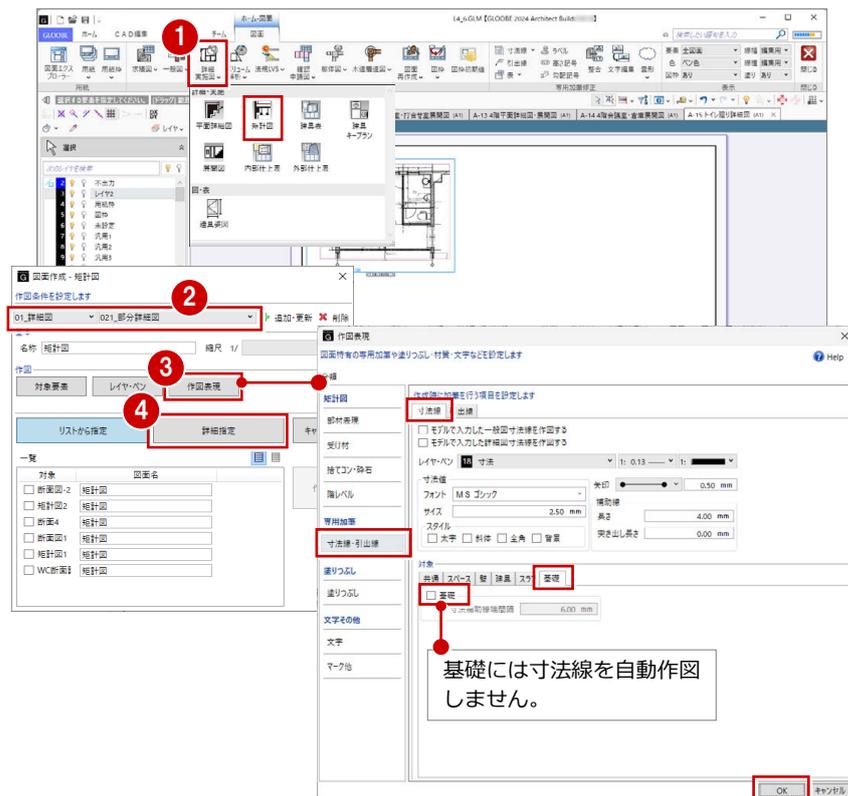
- ① 「A-15 トイレ廻り詳細図」の用紙を表示します。
- ② 「詳細・実施図」メニューから「平面詳細図」を選びます。
- ③ テンプレートから「01_詳細図」の「021_部分詳細図」を選びます。
- ④ 「詳細指定」をクリックします。
- ⑤ 対象階が「1F」であることを確認します。
- ⑥ 図面のタイトルを設定します。
タイトル：1F WC 廻り平面詳細図
名称に階文字を付け加える：ON
- ⑦ 用紙にレイアウトする範囲（ここではトイレ廻り部分のみ）を指定します。
- ⑧ 「閉じる」をクリックします。
- ⑨ 配置方法を確認します。
ここでは、「図面を生成して配置」がONになっていることを確認します。
- ⑩ 図面の配置位置をクリックします。

図面タイトルは、配置後に図枠のプロパティからも変更できます。

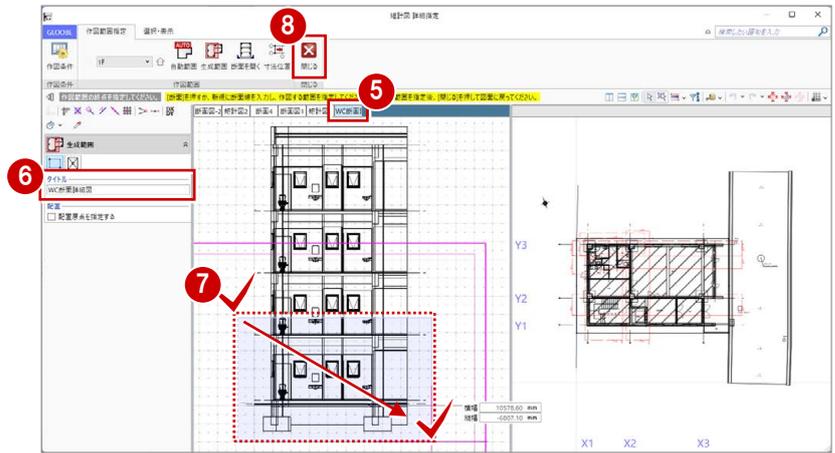


矩計図を配置する

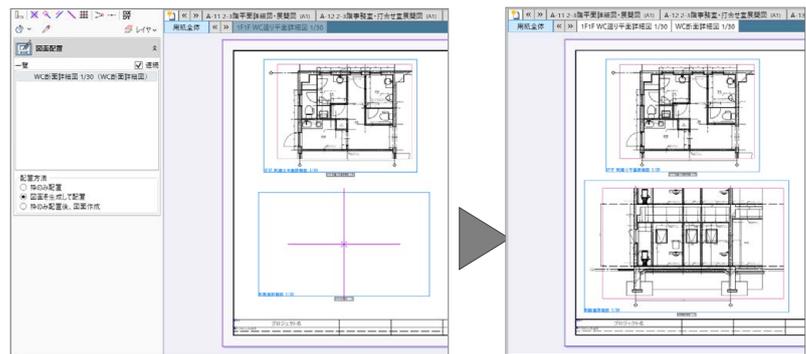
- ① 「詳細・実施図」メニューから「矩計図」を選びます。
- ② テンプレートから「01_詳細図」の「021_部分詳細図」を選びます。
- ③ 「作図表現」をクリックして、「寸法線・引出線」の「寸法線」タブの「基礎」をOFFに設定します。
- ④ 「詳細指定」をクリックします。



- 5 作成する断面（ここでは「WC断面詳細図」）を選びます。
- 6 図面のタイトルを設定します。
タイトル：WC断面詳細図
- 7 用紙にレイアウトする範囲を指定します。
- 8 「閉じる」をクリックします。

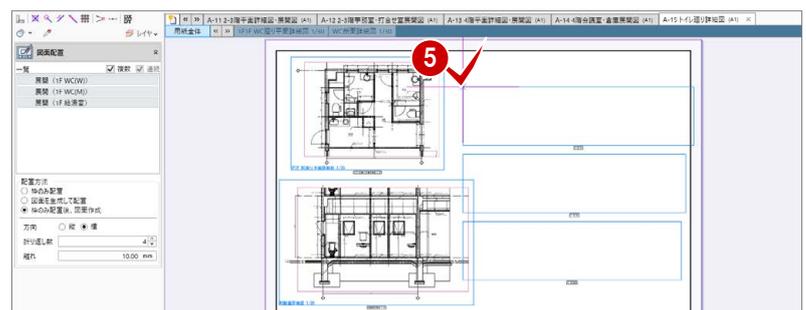
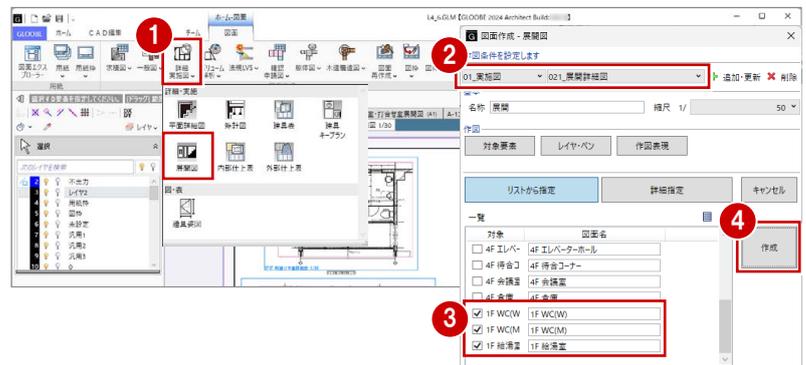


- 9 図面の配置位置をクリックします。

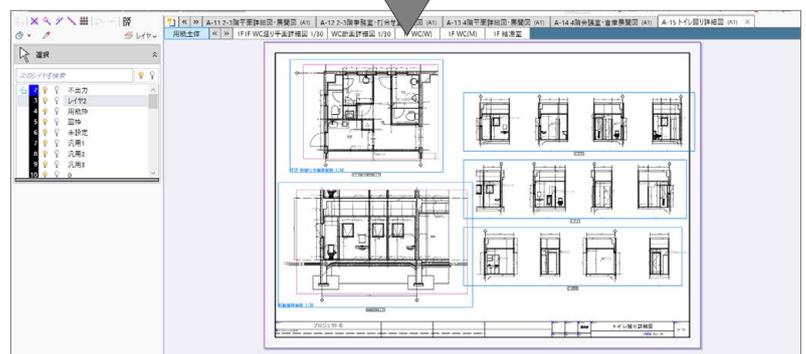
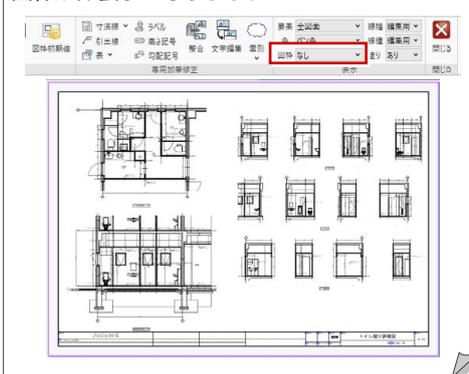


展開図を配置する

- 1 「詳細・実施図」メニューから「展開図」を選びます。
- 2 テンプレートから「01_実施図」の「021_展開詳細図」を選びます。
- 3 作成する展開視点（ここでは「1F WC (W)」 「1F WC (M)」 「1F 給湯室」) にチェックを付けます。
- 4 「作成」をクリックします。
- 5 図面の配置位置をクリックします。



「表示」グループの「図枠」が「なし」の場合は、図枠が非表示になります。



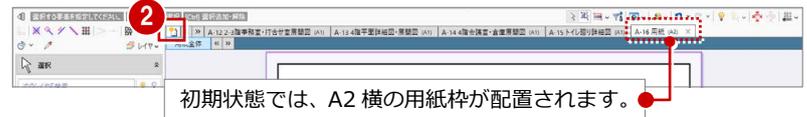
建具キープランを作成する

用紙を追加する

- ① 「A-15 トイレ廻り詳細図 (A1)」が開いていることを確認します。
- ② 「用紙の追加」をクリックします。
開いていた用紙の次に、新しい用紙が追加されます。
- ③ 「用紙枠配置」をクリックします。
- ④ レイアを「用紙枠」、テンプレートから「A1 サイズ」の「A タイプ (横)」を選んで、「OK」をクリックします。
- ⑤ 確認画面で「はい」をクリックします。
用紙枠が変更されます。

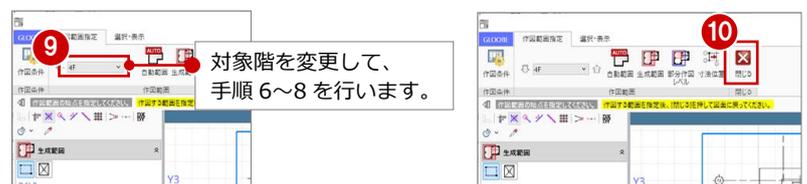
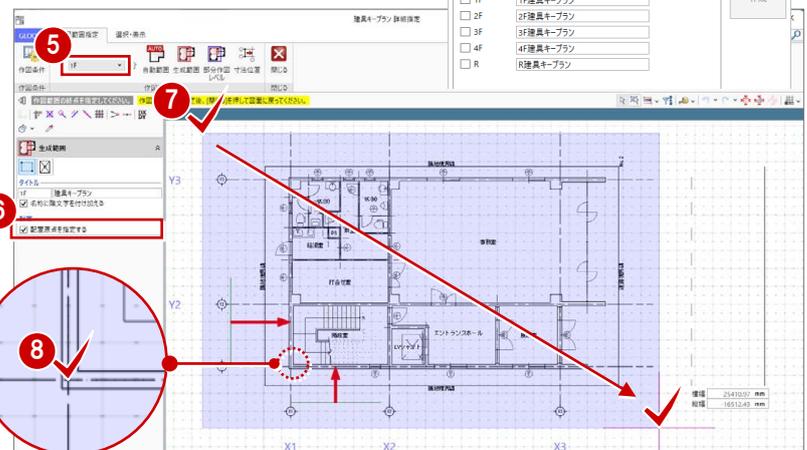
「初期値セット」をクリックすると、シートの起動時や用紙の追加時に、指定した用紙枠が配置されるようになります。
なお、用紙枠は自社用のものを登録できます。

- ⑥ 用紙タブ上で右クリックして、「用紙のプロパティ」を選びます。
- ⑦ 名称を「建具キープラン」に変更して、「OK」をクリックします。



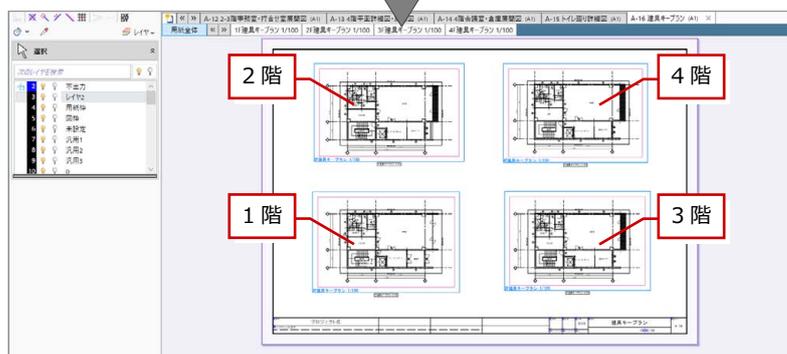
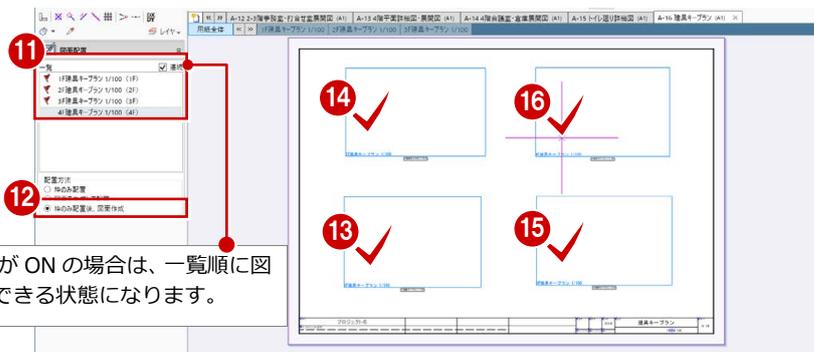
建具キープランを配置する

- ① 「詳細・実施図」メニューから「建具キープラン」を選びます。
- ② テンプレートから「01_実施図」の「01_建具キープラン」を選びます。
- ③ 縮尺を「1/100」に変更します。
- ④ 「詳細指定」をクリックします。
- ⑤ 対象階が「1F」であることを確認します。
- ⑥ 「配置原点を指定する」にチェックを付けます。
- ⑦ 用紙にレイアウトする範囲を指定します。
- ⑧ 配置の基準として、X1 通りと Y1 通りの交点をクリックします。
- ⑨ 対象階を変更して、同様の操作で 2~4 階の生成範囲と配置原点を指定します。
配置原点は、1 階と同じく、X1 通りと Y1 通りの交点を指定します。
- ⑩ 「閉じる」をクリックします。



- 11 一覧から配置する図面を選びます。
- 12 配置方法を選びます。
ここでは、「枠のみ配置後、図面作成」を ON にします。
- 13～16 図面の配置位置を順にクリックします。

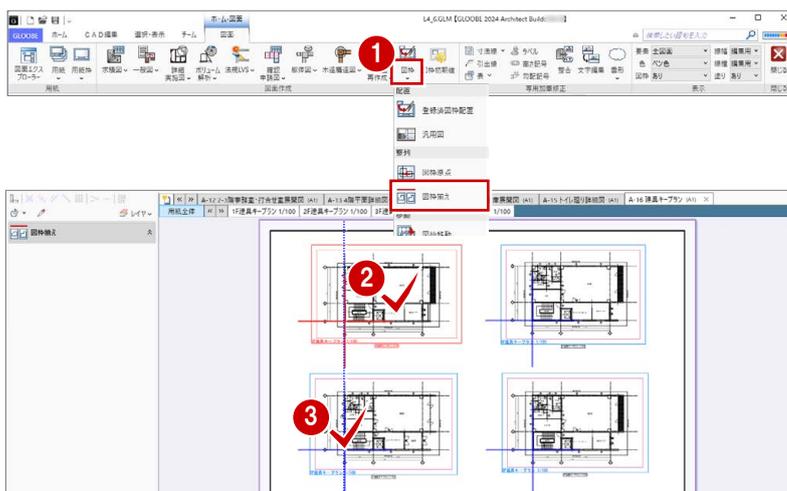
「連続」が ON の場合は、一覧順に図面配置できる状態になります。



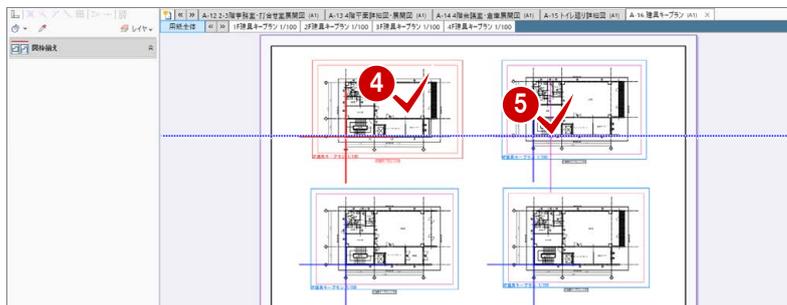
図面の位置を揃える

「詳細指定」ウィンドウで指定した配置原点を基準に図面を揃えましょう。

- 1 「図枠」メニューから「図枠揃え」を選びます。
- 2 移動する図面をクリックします。
- 3 基準とする図面の原点位置から延びる垂直線をクリックします。
先に指定した図面が移動して、垂直方向の位置が揃います。

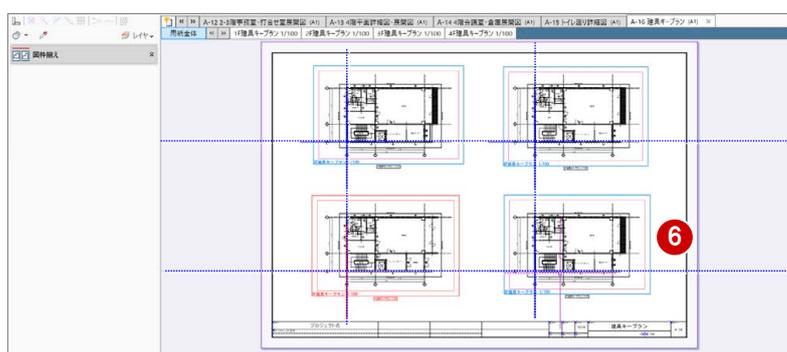


- 4 5 同様にして、水平方向の位置も揃えます。



- 6 他の図面の位置も揃えます。

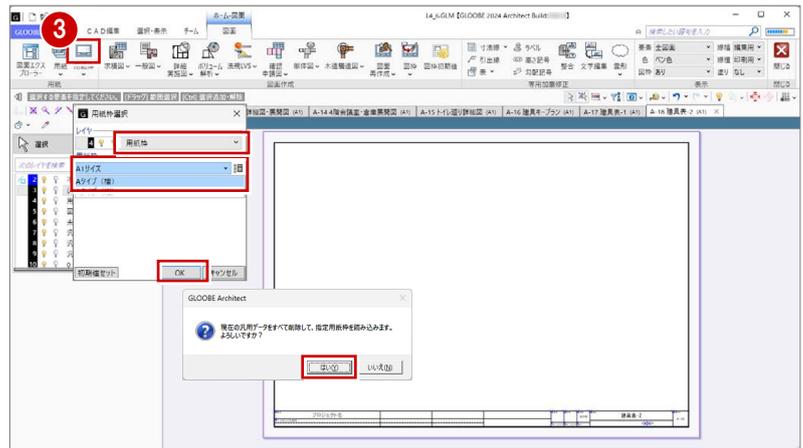
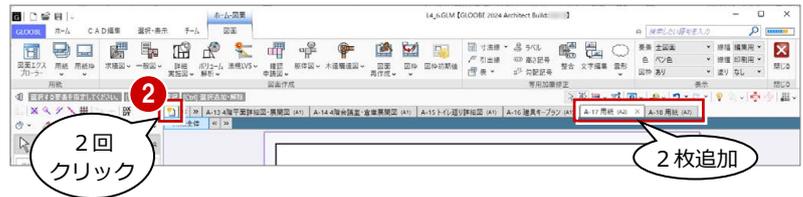
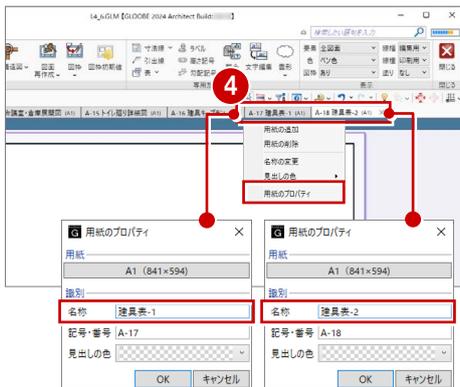
図面の原点位置は、「図枠」メニューの「図枠原点」でも設定できます。



建具表を作成する

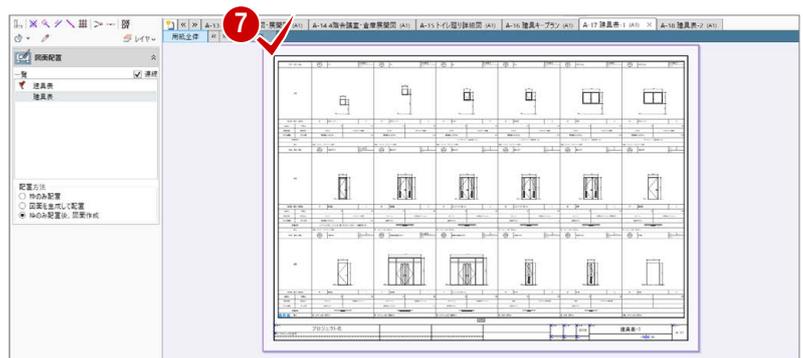
用紙を追加する

- ① 「A-16 建具キープラン (A1)」が開いていることを確認します。
- ② 「用紙の追加」を2回クリックして、用紙を2枚追加します。
- ③ 追加した各用紙で「用紙枠配置」をクリックして、レイヤを「用紙枠」、用紙枠はA1横で配置します。
- ④ 用紙タブ上で右クリックして「用紙のプロパティ」を選び、名称を変更します。

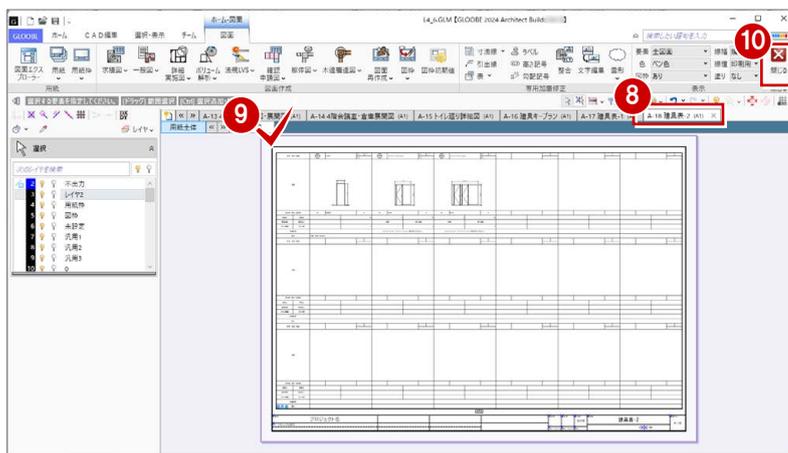


建具表を配置する

- ① 「A-17 建具表-1」の用紙を表示します。
- ② 「詳細・実施図」メニューから「建具表」を選びます。
- ③ テンプレートから「01_実施図(A1サイズ)」の「姿図一体型(簡易項目)」を選びます。
- ④ 「一括作成」をクリックします。
- ⑤ 対象が「全て」になっていることを確認して、「OK」をクリックします。
- ⑥ ページが複数にわたる場合は「作成範囲」ダイアログが表示されます。全ページがONになっていることを確認して、「OK」をクリックします。
- ⑦ 1ページ目の建具表の配置位置をクリックします。



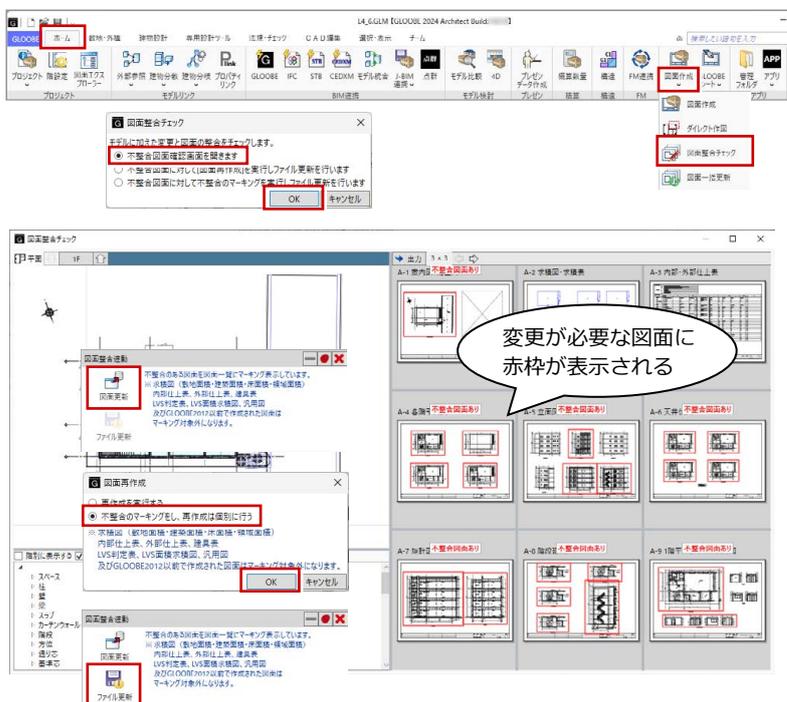
- 8 「A-18 建具表-2」の用紙を表示します。
- 9 2ページ目の建具表の配置位置をクリックします。
- 10 「閉じる」をクリックします。メインウィンドウに戻ります。



図面を作成後に設計変更があった場合

「ホーム」タブの「図面作成」メニューの「図面整合チェック」を使用すると、修正が必要な図面を検索して、不整合がある図面を一括して再作成したり、不整合のマーキングをすることができます。

なお、図面整合チェックは、図面を作成したときに入力されていたオブジェクトに対するチェックで、図面作成後に新たに追加したオブジェクトはチェックできません。また、文字などの汎用データはチェックの対象外です。



※ 不整合のマーキングをした場合は、図面を開いて「図面再作成」を実行します。

